

1. 計画策定主旨

○保土ヶ谷宿の魅力

旧東海道保土ヶ谷宿は、宿場町として約400年前からの歴史を積み重ね、帷子橋跡や本陣跡、旅籠跡等の歴史的資源を継承しています。近年では、保土ヶ谷宿場まつりをはじめ、地域の文化資源、歴史資源を活かしたまちづくり活動が活発に行われています。

今回のまち・みち再生計画は、保土ヶ谷区のマスタープランのまちづくりの目標である「市の中心部に近い立地を活かし、自然や歴史などの魅力を大切にしたい、いつまでも住み続けたいまち」に沿って、保土ヶ谷駅・天王町駅周辺の再生や活性化に寄与することを目標としています。



○一般国道（保土ヶ谷橋工区）について

これまでに、本陣跡地等が沿道に残る国道1号は、道路拡幅事業を実施するにあたり市民に愛される良質な都市資産として引き継いでいけるまちづくりを進めるため、『東海道の歴史的資源を活かしたまちづくり整備方針』を平成23年度にとりまとめ、第114回都市美対策審議会でご審議いただきました。

その後、「みち」自体が市民に愛される魅力的な拠点になれるよう、市民参加による意見交換を踏まえ、『同整備計画（案）（参考資料1）』を平成25年度に作成し、「東海道の歴史的資源を活かしたまちづくり～多くの人に愛されながら保土ヶ谷宿の歴史を紡ぐ～」というコンセプトのもと、道路拡幅事業を進めています。

○まち・みち再生計画について

本計画は、「横浜市都市計画マスタープラン」や「横浜市景観ビジョン」、「保土ヶ谷区歴史まちなみ基本構想」の位置づけや方針を踏まえ、地域活動団体へのヒアリングや市民ワークショップにより地元のニーズを把握し、学識経験者による検討会を経て、旧東海道の歴史を感じる景観形成や人が集まる場づくりなどの検討を行いました。

そして、後世に引き継がれることを目指した『旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画』を策定し、まち・みちづくり事業を実施するにあたっての、今後の基本方針とするものです。

2. 検討の進め方

(1) 検討体制

(検討会)

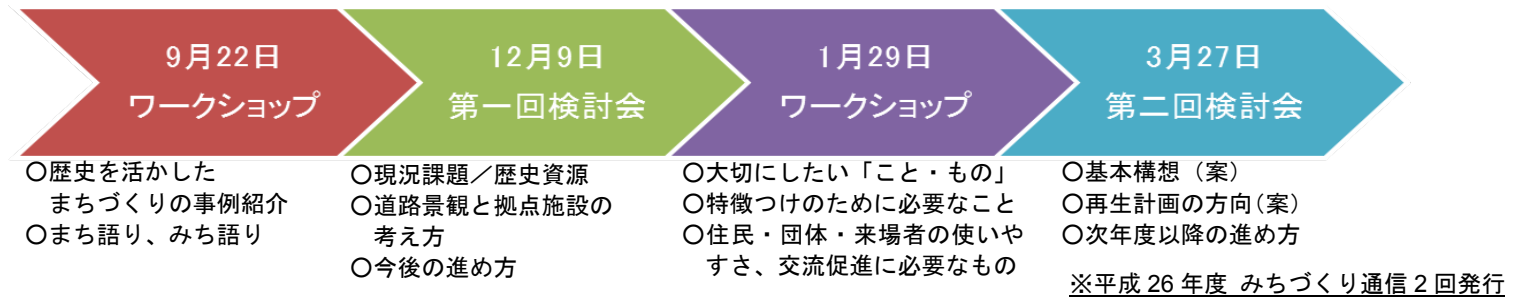
| | | |
|-------|---------------|-------------------|
| 佐々木 葉 | 早稲田大学創造理工学部教授 | 景観デザイン・都市美対策審議会委員 |
| 斉藤 司 | 横浜開港資料館 学芸員 | 地域史・近世史 |
| 藤本 貴也 | 全国街道交流会議 代表理事 | 道路行政 |
| 野原 卓 | 横浜国立大学大学院准教授 | 都市デザイン・都市美対策審議会委員 |
| 藤原 徹平 | 横浜国立大学大学院准教授 | 建築デザイン |

(庁内)

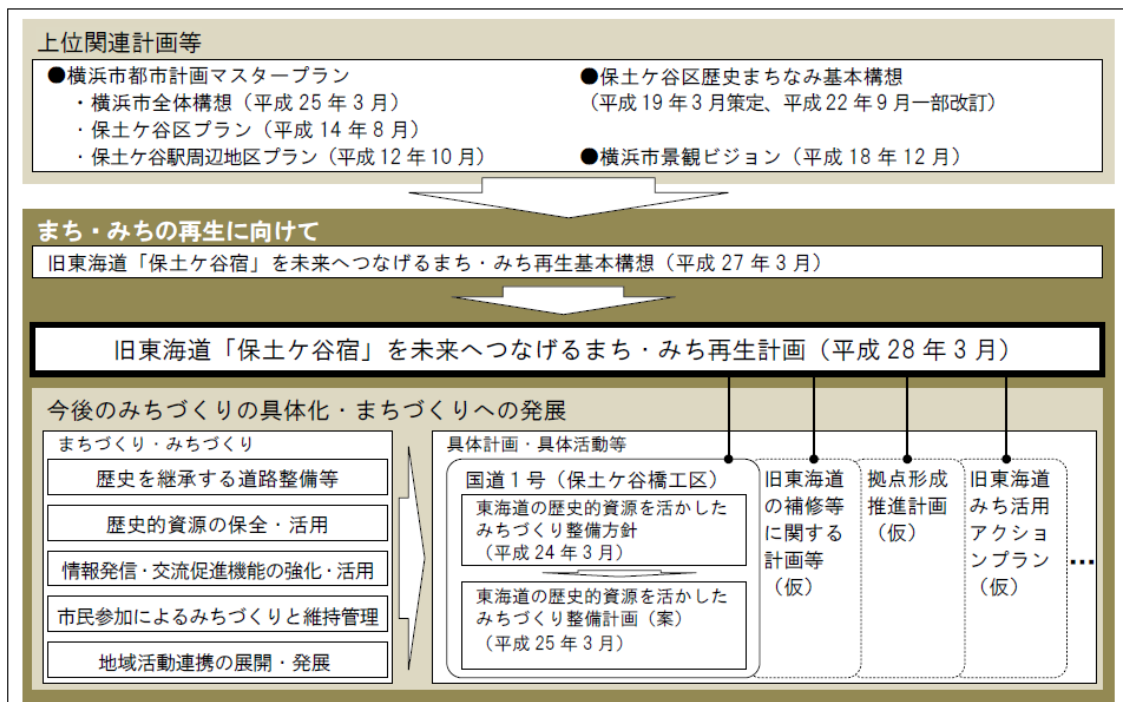
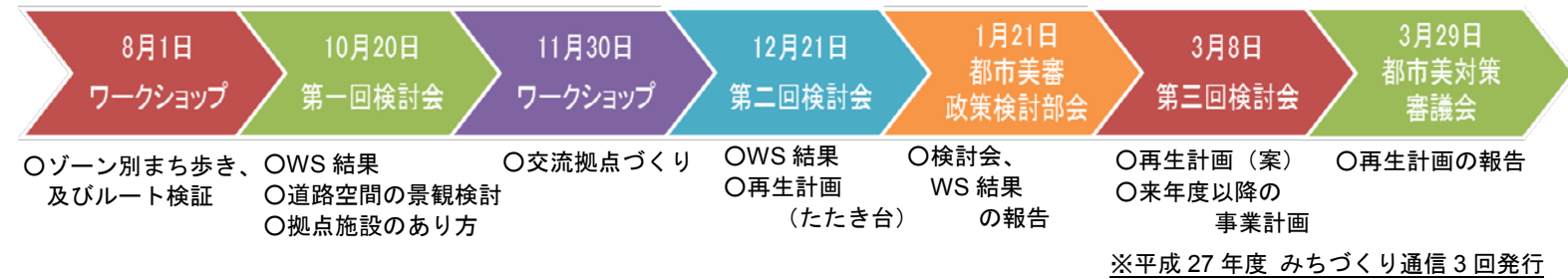
保土ヶ谷区区政推進課、保土ヶ谷土木事務所、都市整備局都市デザイン室、道路局企画課

(2) 基本スケジュール

平成26年度 基本構想の検討



平成27年度 再生計画の検討



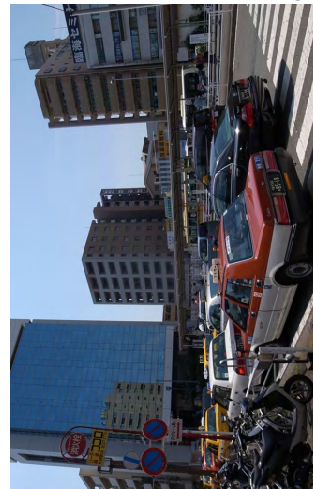
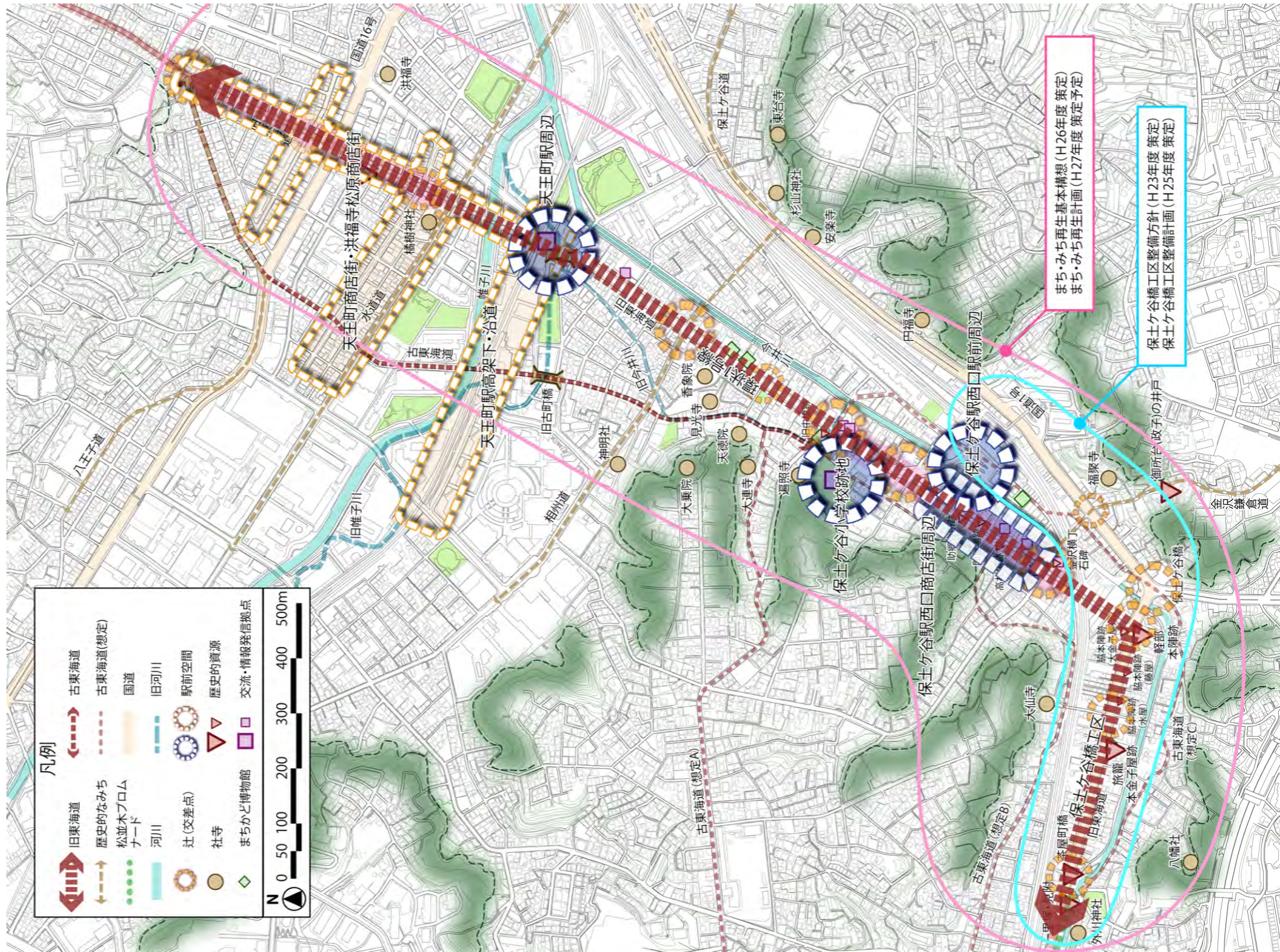
再生計画の位置付け



検討会の様子



ワークショップの様子



②保土ヶ谷駅西口野



①保土ヶ谷駅西口商店街



④天王町駅周辺



③保土ヶ谷小学校跡地

まち・みち再生基本構想(H26年度策定)
まち・みち再生計画(H27年度策定)

保土ヶ谷橋工区整備方針(H23年度策定)
保土ヶ谷橋工区整備計画(H25年度策定)

序. まち・みち再生基本構想 (平成27年3月策定)

■まちづくりとみちづくりのコンセプト

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

【視点1】“まち”と“みち”の変遷を地域の魅力として継承する

【視点2】地域内外の交流を活性化させる

【視点3】まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める

1. まち・みち再生の枠組み

歴史を活かし地域とともにつくり育てる道筋再生と拠点形成

1) 「道筋」の再生と「辻」の形成によるまちの構成の明瞭化

連携

2) 地域・資源を活かす拠点形成

連携

3) 地域活動の連携のさらなる促進と活性化

連携 活用

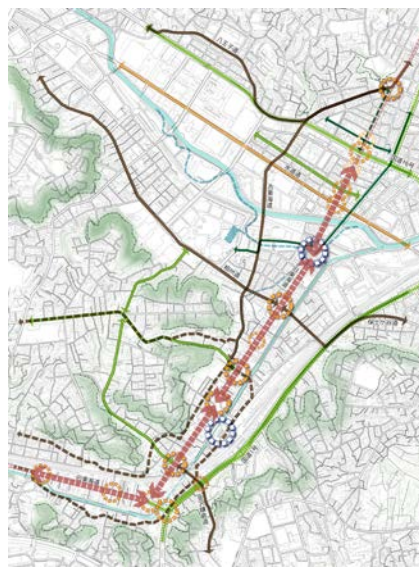
2. まち・みちの再生計画

1) 道筋の再生と道路景観づくり

旧東海道を主軸とし、道筋と資源の歴史の積層を活かした奥行きあるネットワーク形成

(1)保土ヶ谷宿エリアの軸となる「旧東海道の道筋の連続性を高める」デザイン

(2)各時代の道をつなぎ、街の奥行きをつくる道筋・辻のデザイン



2) 情報発信・交流促進拠点づくり

生活ゾーンの結節点における拠点機能と地域資源のテーマを活かした交流促進

(1)4つの生活ゾーンをつなぐ3つの交流結節点の形成

(2)歴史・地域資源・人材・活動を活かしたテーマ別の交流促進

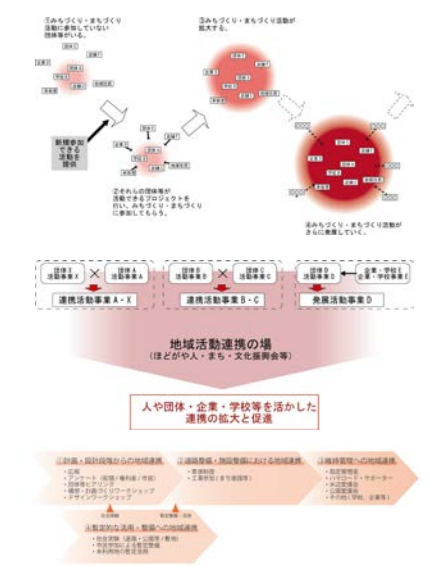


3) 地域活動連携

様々な人が地域活動に関わる機会を増やし、保土ヶ谷エリアに対する意識・愛着を高める地域活動連携

(1)地域活動とまちづくり・みちづくりの連携強化

(2)計画・設計段階から整備、運営に至る各段階への地域連携



3. 重点地区の再生計画

重点地区：4つの生活ゾーンとその結節点において、整備の緊急性と周辺への波及効果、他事業の状況等を考慮し選定



保土ヶ谷駅周辺・西口商店街ゾーン

1) 保土ヶ谷駅西口商店街周辺

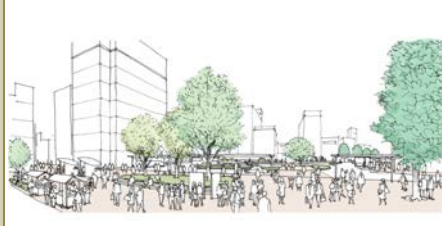
旧東海道の道筋を活かした、駅・今井川・地域活動拠点をつなぐ周遊ネットワークの形成



結節点：保土ヶ谷小学校跡地・保土ヶ谷駅周辺

2) 保土ヶ谷駅西口駅前周辺

保土ヶ谷宿周辺エリアの顔に相応しい駅前空間と旧東海道・今井川を活かした分かりやすいまちの構成づくり



3) 保土ヶ谷小学校跡地

保土ヶ谷宿周辺エリアの多様な利用者や世代を繋ぎ、交流の輪を広げる拠点機能の醸成



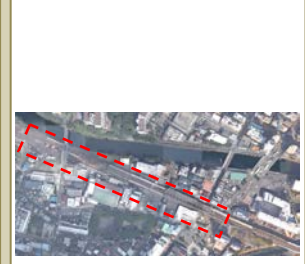
結節点：天王町駅前周辺

4) 天王町駅周辺

保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口に相応しい駅前空間の象徴性を高める一体的な空間づくり



5) 天王町駅高架下・沿道
天王町エリアの賑わいをつなげ、広げるネットワーク空間づくり



洪福寺松原商店街・天王町商店街ゾーン

6) 天王町商店街・洪福寺松原商店街
地域の日常生活の拠点となる賑わいの空間づくり



4. 実現に向けて

旧東海道から“まち・みち・ひと”が繋がりを広げるまちづくり・みちづくりの推進

- 1) 個別事業や補修整備等の連鎖による道筋再生の実現
- 2) 地域や民間事業者と協働したより魅力的で発展的な拠点の実現
- 3) 関係者との十分な調整と継続的な取り組みの実施

旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげる まち・みち再生計画（案）

序-1. 目的と位置づけ

- 1) まち・みち再生計画の目的
- 2) まち・みち再生計画の位置づけ
- 3) 対象地

序-2. 旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生基本構想（概要）

- 1) 基本構想の構成
- 2) 歴史的経緯とまちの構成の変遷

1. 再生の枠組み

- 1) 「道筋」の再生と「辻」の形成によるまちの構成の明瞭化
- 2) 地域・資源を活かす拠点形成
- 3) 地域活動の連携のさらなる促進と活性化

2. まち・みちの再生計画

- 1) 道筋の再生と道路景観づくり
- 2) 情報発信・交流促進拠点づくり
- 3) 地域活動連携

3. 重点地区の再生計画

- 1) 保土ヶ谷駅西口商店街周辺
- 2) 保土ヶ谷駅西口駅前周辺
- 3) 保土ヶ谷小学校跡地
- 4) 天王町駅周辺
- 5) 天王町駅高架下・沿道
- 6) 天王町商店街・洪福寺松原商店街

4. 実現に向けて

- 1) 個別事業や補修整備等の連鎖による道筋再生の実現
- 2) 地域や民間事業者と協働したより魅力的で発展的な拠点の実現
- 3) 関係者との十分な調整と継続的な取組みの実施

参考. 旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生基本構想（抜粋）

- 1) 保土ヶ谷宿のまちづくりとみちづくりのコンセプトと視点
- 2) 道路空間整備のコンセプトと景観整備の方針
- 3) 情報発信・交流促進のコンセプトと拠点整備の方針
- 4) 地域活動連携のコンセプトと市民参加の方針

平成28年3月
横浜市 道路局・保土ヶ谷区

1) まち・みち再生計画策定の目的

旧東海道「保土ヶ谷宿」には、地域の歴史を伝える本陣跡や旅籠跡等の地域を代表する歴史的資源が立地している。また、中世から現代に至り発展してきた各種の道筋や、それら道筋に関連した多くの歴史的資源が残されているが、道路の拡幅整備やまちの構造の変化などにより、旧東海道保土ヶ谷宿エリアのまちのつながりや積み重ねられてきた歴史のつながりが希薄化しつつある。

一方近年では、旧東海道保土ヶ谷宿を中心とした文化や歴史的資源を活かした地域住民主体の様々なまちづくり活動や旧東海道沿いの観光まち歩きなども活発化してきているが、周辺住民、市民を含めた地域資源としての認識の高まりは途についたところである。

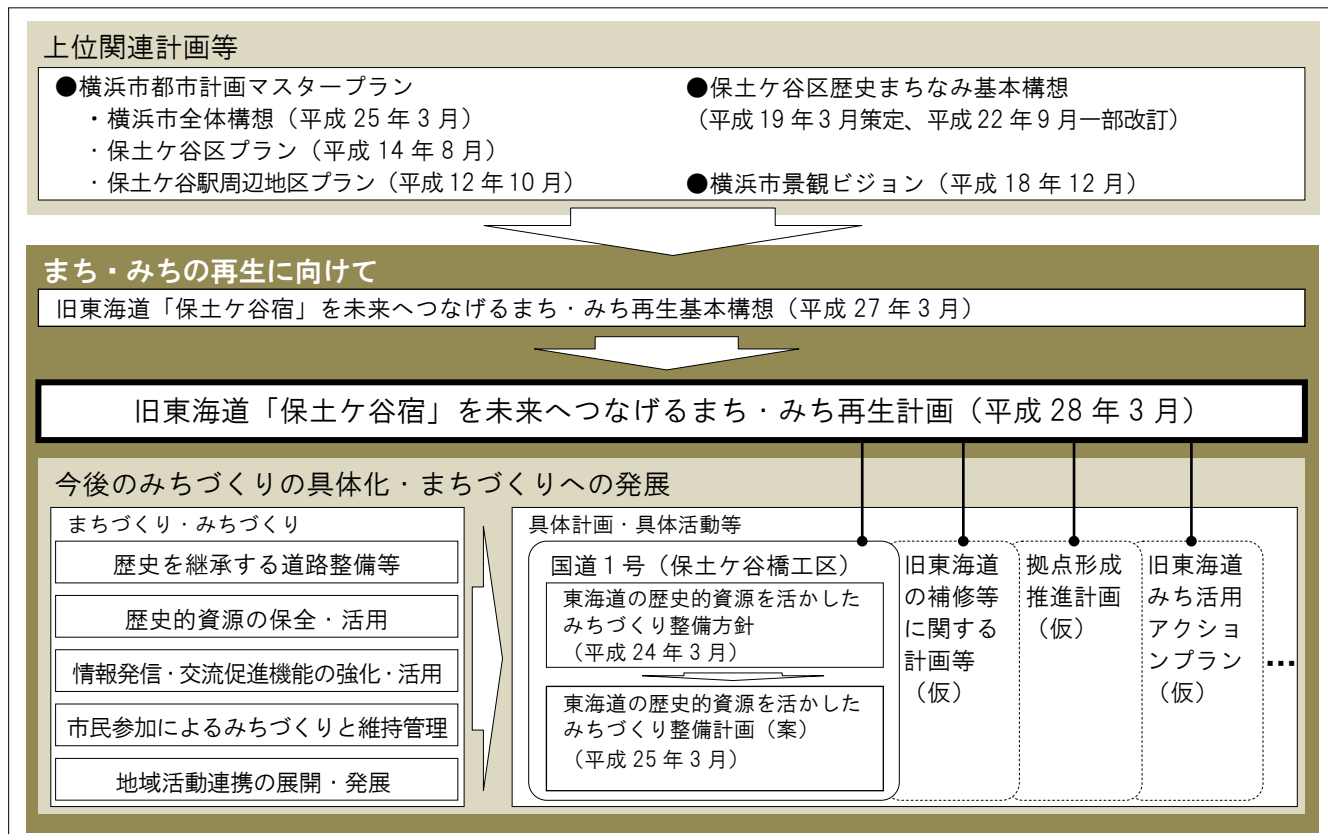
このような背景のもと、「旧東海道『保土ヶ谷宿』を未来につなげるまち・みち再生計画」は、中世から現代にかけて積み重ねられてきた道筋とそれらに関連する資源を活かし、地域に愛され地域資産として継承されるとともに、活用され活性化を促す道路づくりと拠点づくりを地域とともに進めていくための計画として定めるものである。

2) まち・みち再生計画の位置づけ

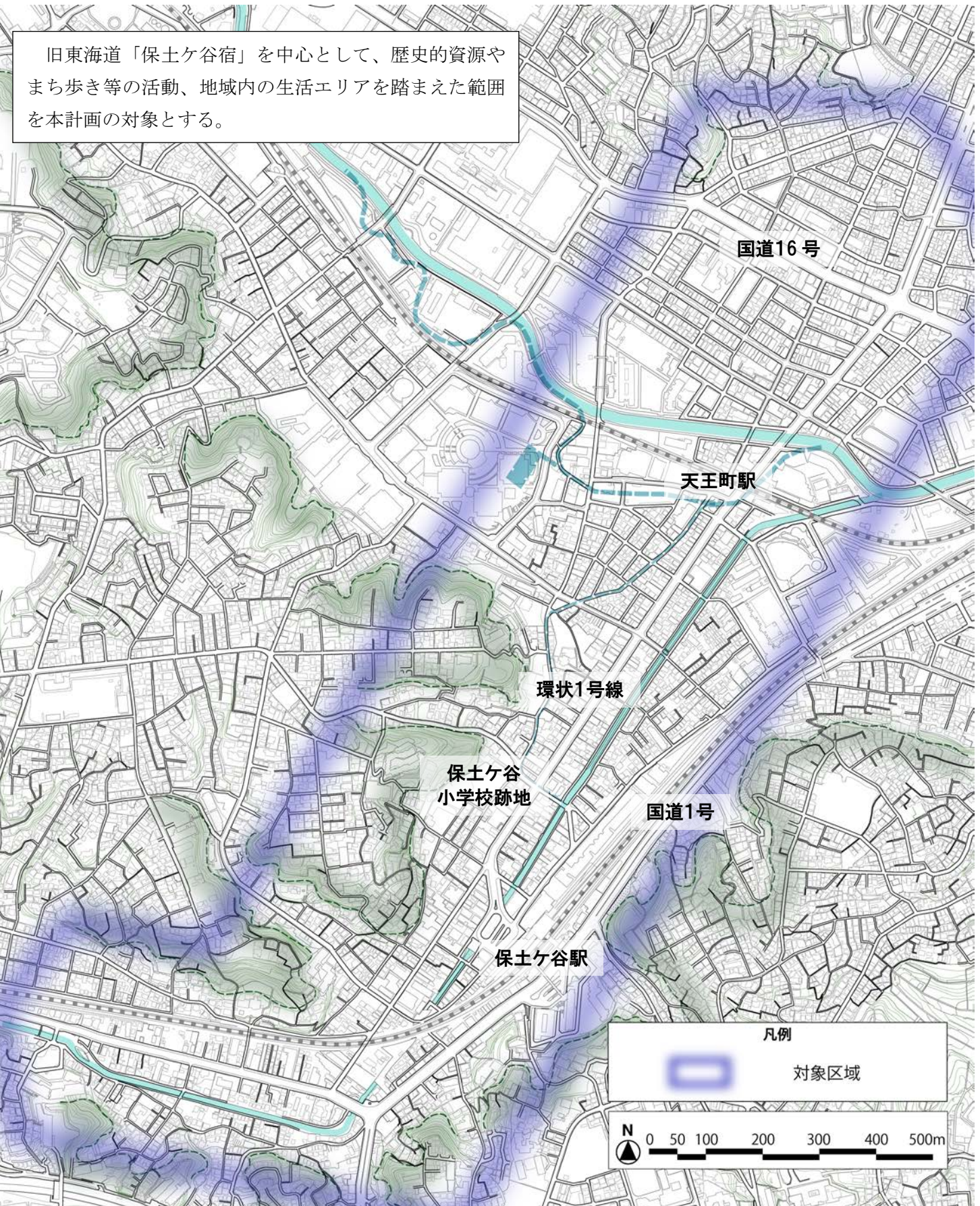
本計画は、「横浜市都市計画マスタープラン」や「横浜市景観ビジョン」、「保土ヶ谷区歴史まちなみ基本構想」の位置づけや方針を踏まえ、地域活動団体へのヒアリングや市民ワークショップにより地元のニーズを把握し、学識経験者による検討会や、都市美対策審議会を経て策定した。

すでに事業化している国道1号（保土ヶ谷橋工区）の整備計画等を始めとする具体計画を包含する計画として、今後のみちづくりの具体化やまちづくりの発展の方向性を示すものであり、今後これを基に事業化を図っていく。

再生計画の位置づけ



3) 対象地



1) 基本構想の構成

■まちづくりとみちづくりのコンセプト

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

【視点1】“まち”と“みち”の変遷を地域の魅力として継承する

【視点2】地域内外の交流を活性化する

【視点3】まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める

■道路空間の整備コンセプト

保土ヶ谷宿の道筋発展の歴史を活かし
“まちに奥ゆきを与える”みちづくり

【景観整備の方針】

方針1 旧東海道の多様な道路幅・道路断面を1つにつなぐ街道風情漂うみちづくり
 ・道筋としての連続性の強化
 ・街並み形成などによる道筋のつながりの強化

方針2 保土ヶ谷宿地域の歴史の深みを継承し、東海道の奥行きを作る回遊性の高いみちづくり
 ・古道や現・旧河川、明治以降の道筋・川筋と資源の活用
 ・道筋の特性を活かした辻空間の形成

方針3 暮らしの豊かさを高めるみちづくり
 ・店舗や住まいの立地が促され、活用される魅力的なみちづくり
 ・脇道や路地、参道等の活用

■情報発信・交流促進のコンセプト

住む人・訪れる人を繋ぐ、拠点の形成

【拠点整備の方針】

方針1 時代とひとつをつなぐ拠点の活用強化
 ・公民の既存交流施設の活用促進
 ・社寺や公園、名産品店舗等の活用

方針2 まち歩きを支援する情報・休憩拠点の形成
 ・天王町駅・保土ヶ谷駅での駅や駅周辺における滞留空間の確保と情報発信
 ・天王町駅付近でのまち歩きの中継地としての休憩機能確保

方針3 歴史がしみ込み、地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々をつなぐ交流拠点の形成
 ・気軽に利用でき、自然と地域性が高まる拠点づくり
 ・歴史を活かした地域内外の交流促進
 ・保土ヶ谷小学校跡地の活用

■地域活動連携のコンセプト

地域とともに創り育てるまちづくり、みちづくり

【地域活動連携の方針】

方針1 まち・みちへの関心と繋がりを強化し、まちづくり・みちづくりの推進力を高める
 ・市街地の変遷の特徴を活かした繋がりづくり
 ・地域活動団体、地域内外の連携の促進

方針2 計画・設計、整備、管理・活用の各段階等への市民参加
 ・多様な市民参加手法の活用
 ・社会実験・イベント等の活用

【重点地区の“まちづくり”“みちづくり”の方針】

【天王町駅周辺】

・道筋の連続性の再生
 ・まち歩きの起点・中継地としての機能導入
 ・旧帷子橋の活用
 ・駅舎・駅広・道路・公園等の空間の一体性確保
 ・地域による活用 等

【天王町駅高架下・沿道】

・高架下と沿道による新たな筋の形成
 ・帷子川の親水性や古道・旧東海道の歴史を活かした空間づくり
 ・安全で快適な道路整備や賑わい形成等

【保土ヶ谷駅西口商店街周辺】

・継承される道幅の活用
 ・歩行者の安全性の確保
 ・歩車共存道路の実現
 ・交通のあり方検討
 ・街道風情を感じる設え
 ・地域活動等への対応 等

【保土ヶ谷小学校跡地】

・道の駅的な機能の導入検討
 ・歴史を活かした地域内外交流機能の検討
 ・広場空間の検討
 ・視認性とアプローチ動線の改善検討
 ・駅との駐輪場・駐車場等の役割検討
 ・複合施設化の可能性検討 等

【保土ヶ谷駅西口周辺】

・まち歩きの起点機能の確保
 ・旧東海道への道筋や今井川の川筋との関係性を高める駅前広場形成
 ・西口商店街や今井川等を含めた回遊エリア形成
 ・駅広機能の再整理や駐輪場対応 等

【天王町商店街・洪福寺松原商店街】

・道路や施設のバリアフリー化
 ・交通のあり方検討
 ・賑わいの維持向上の検討 等

■まち・みちの再生に向けて

旧東海道から“まち・みち・ひと”が、繋がり広がるまちづくり・みちづくり

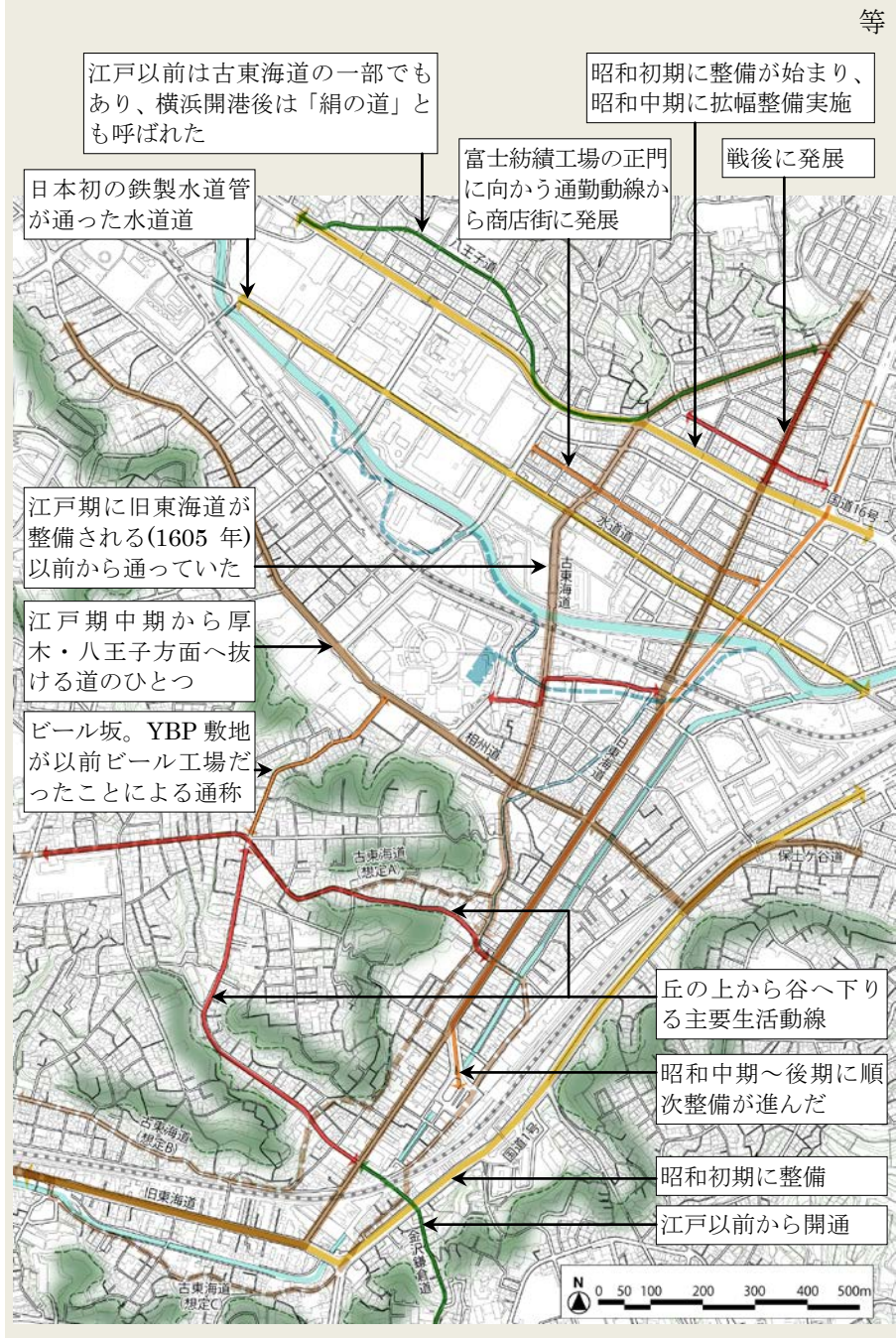
旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画（案）

2) 歴史的経緯とまちの構成の変遷

○歴史の積層した道筋

各時代に必要とされる道筋の整備や発展による歴史が積層している。

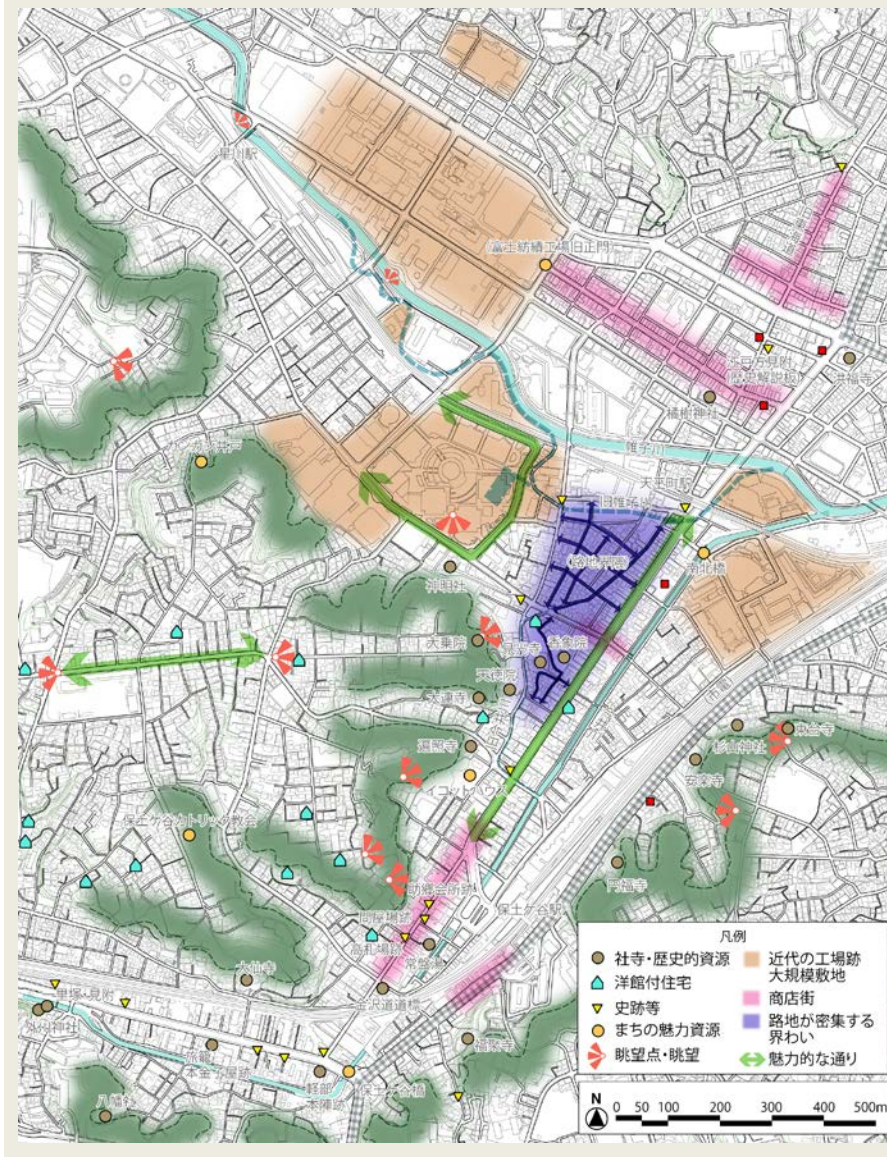
- ・保土ヶ谷宿が成立する以前から当地区を通過しているみち
- ・江戸期のみち、昭和初期に整備が進んだみち
- ・昭和中期～後期の高度成長期に天王町一帯で発展した富士紡績工場等を中心としたみち



○地域の魅力を顕在化する資源

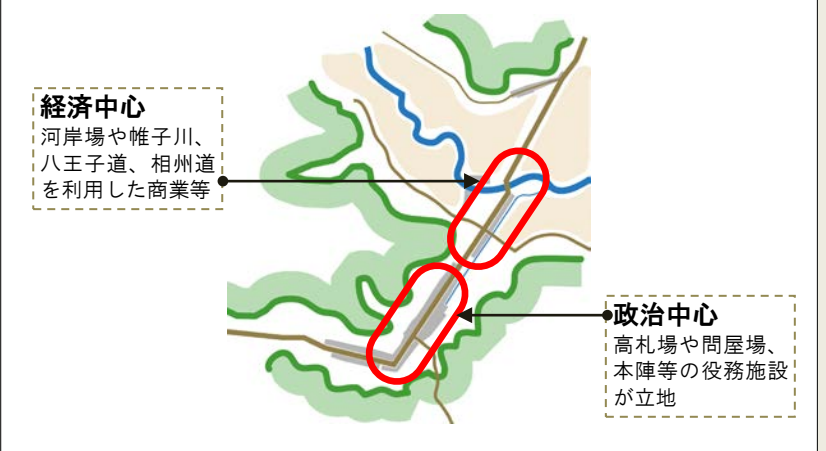
多様な魅力資源が広がっている。

- ・古くからエリア内に集積している社寺
- ・近代に産業が著しく発展した天王町一帯の大規模土地利用の発展経緯
- ・特徴の異なる商店街の集積
- ・路地の雰囲気が魅力的な界わり性を感じるエリア
- ・地形的な特徴から眺望を楽しめるスポットの点在
- ・地域住民の心象風景として認識されている街路樹のある通り

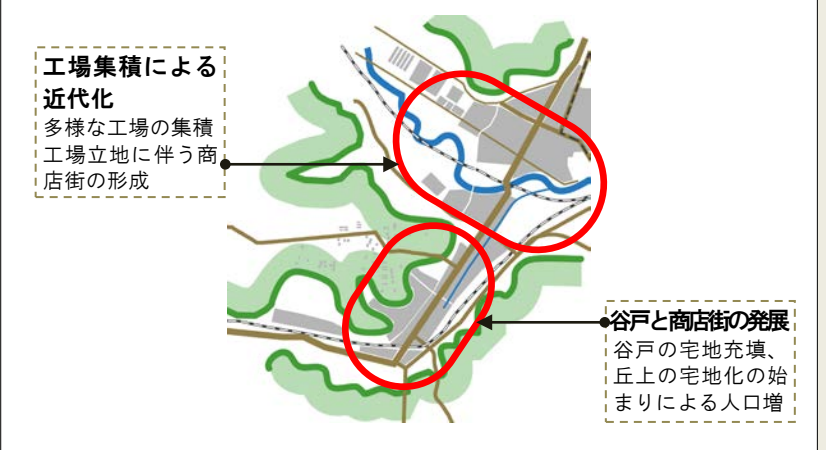


○市街地構成の変遷

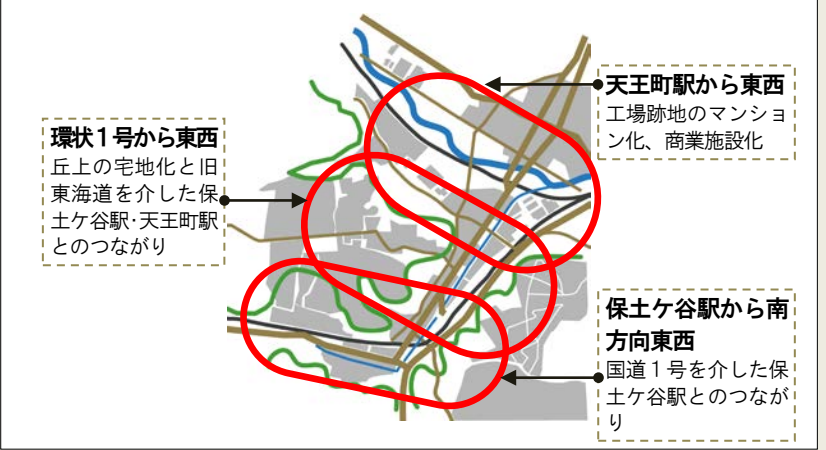
【江戸期】



【明治～昭和初期】



【高度成長期～】



1. 再生の枠組み

1) 「道筋」の再生と「辻」の形成によるまちの構成の明瞭化 2) 地域・資源を活かす拠点形成 3) 地域活動の連携のさらなる促進と活性化

歴史を活かし地域とともに作り育てる道筋再生と拠点形成

地域住民や地域活動団体とともに、各時代の歴史の積層を活かした道筋のネットワークや拠点形成を図り、歴史の継承や交流の活性化を図っていく。

1) 「道筋」の再生と「辻」の形成によるまちの構成の明瞭化

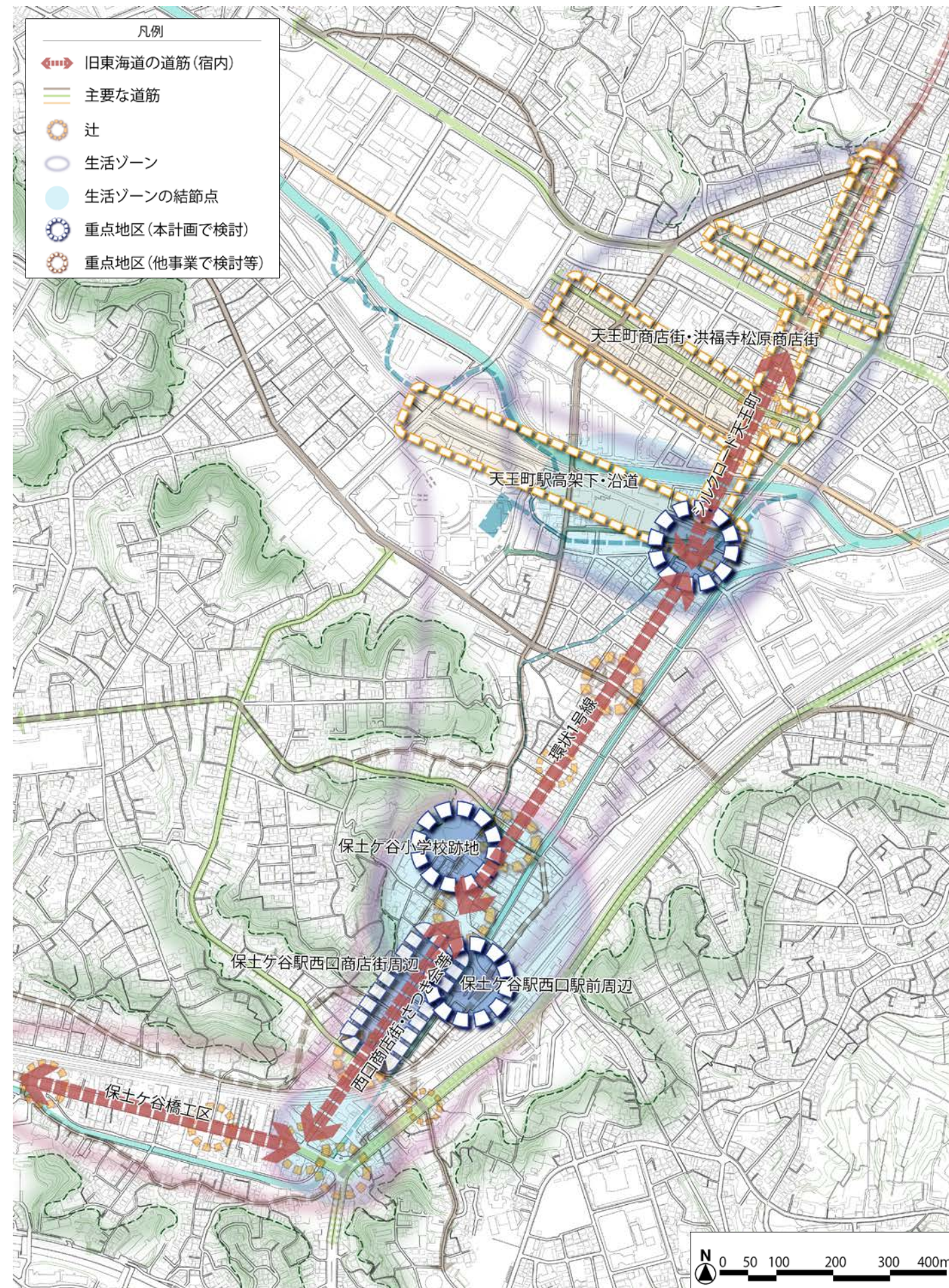
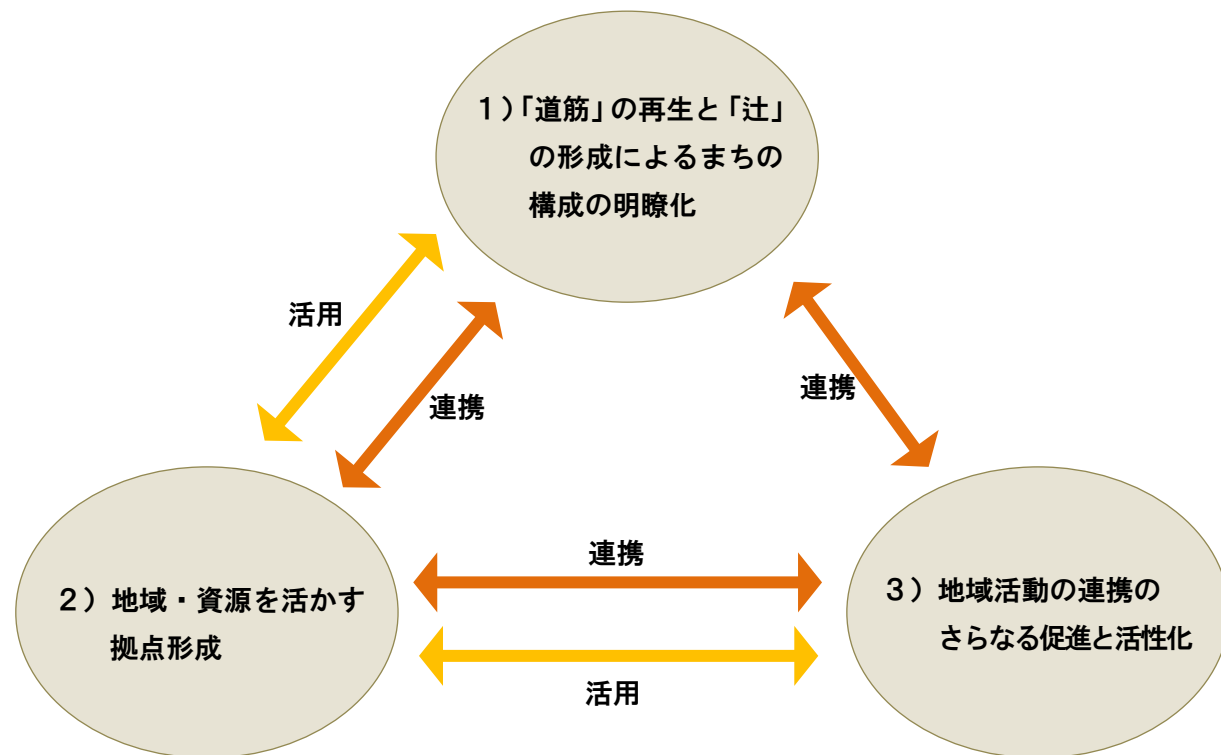
- (1) 道筋の再生 (各時代に発展した道筋を見直しネットワーク化)
 - ・旧東海道の道筋の連続化/その他の道筋のデザインの考え方
- (2) 辻の形成 (各道筋を辻でつなぎ歴史を継承し街の奥行きづくり)
 - ・各辻のデザインの考え方/回遊性を高めるサイン等の考え方

2) 地域・資源を活かす拠点形成

- (1) 拠点の形成 (保土ヶ谷宿周辺エリアのつながりを強め地域内・地域内外の交流を活性化)
 - ・4つの生活ゾーンをつなぐ3つの結節点周辺での重点地区の設定
 - ・重点地区内での拠点形成
- (2) 地域資源のテーマ活用 (積層する地域資源等を活かした多様な交流の活性化や担い手育成)
 - ・多様なテーマを活用した交流活性化

3) 地域活動の連携のさらなる促進と活性化

- (1) 活動連携
 - ・地域活動連携への新たな主体の参加促進
 - ・地域参加の活性化



2. まち・みちの再生計画 1) 道筋の再生と道路景観づくり

1) 道筋の再生と道路景観づくり

旧東海道を主軸とし、道筋と資源の歴史の積層を活かした奥行のあるネットワーク形成

○保土ヶ谷宿周辺エリアの道筋と資源の分類

(a) 道筋の分類

- ①主軸・補助軸（旧東海道・古東海道）
- ②歴史的な道筋（古道・近代等に発展した道）
- ③その他の暮らしを支える道筋（丘の上と旧東海道を結ぶ道、今井川沿道等）

(b) 地域資源の分類

- ①地形や斜面緑地、眺望、河川等の恒久性の高い自然資源
- ②史跡・社寺等の中世・近世からの歴史的資源
- ③工場跡地群等の近代産業歴史資源
- ④洋館付住宅等の近代歴史資源
- ⑤市民プラザや公民館、公園・広場、まちかど博物館等の交流資源
- ⑥商店街や大規模店舗・オフィス、鉄道駅等の現代の暮らしを支える資源

○道筋毎の位置づけ

(a) 主軸・補助軸（旧東海道・古東海道）

- ①旧東海道（近世～現代）：保土ヶ谷宿周辺エリアの中心軸となるみち
- ②古東海道（中世～現代）：保土ヶ谷宿周辺エリアの補助軸となるみち

(b) 歴史的な道筋（古道や近代に発展した道）

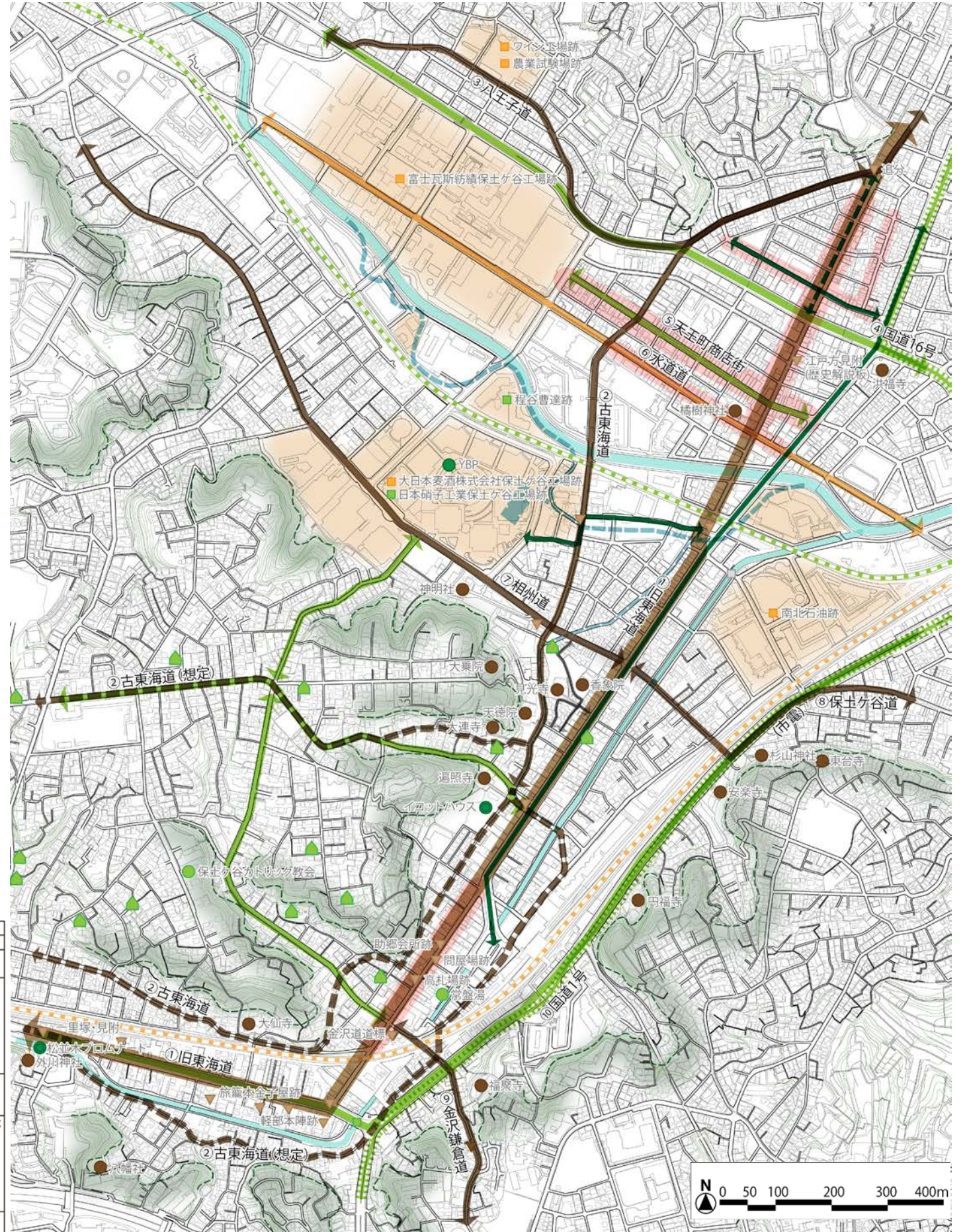
- ③八王子道（中世～近世）：内陸方面への運搬経路の歴史を活かすみち
- ④国道16号（近代～現代）：モータリゼーション時代を支えるみち
- ⑤天王町商店街（近代～現代）：工場立地に伴い発展し今も商店街として地域に根付くみち
- ⑥水道道（近代～現代）：日本初の鉄管水道が敷設された歴史を活かすみち
- ⑦相州道（中世～近代）：相模の国と旧東海道を結び、近代産業を支えた歴史を活かすみち
- ⑧保土ヶ谷道（中世～近代）：古道としての歴史を活かすみち
- ⑨金沢鎌倉道（中世～近世）：鎌倉へ通じる古道で江戸期に景勝地・金沢八景に向かう道としての歴史を活かすみち
- ⑩国道1号（近世～現代）：大動脈としての交通を支えながら宿時代の歴史資源を活かし再生するみち

(c) その他の暮らしを支える道筋（丘の上と旧東海道を結ぶ道、今井川沿道等）

- ⑪環状1号～保土ヶ谷駅：旧東海道とつなぐアクセス路としてのみち
- ⑫桜丘～YBP（ビール坂）、中の橋～桜丘西口商店街～月見台：丘の上の住宅地と平地の市街地を繋げるみち
- ⑬今井川プロムナード：散策などを中心に心地良く歩けるみち

| | 時代別でのまち・みちの出来事 | | | | |
|---------------|--|-------------------------------------|--|---|--|
| | 中世以前 | 近世 | 近代 | 大正時代～昭和初期 | 現代 |
| 各時代の道筋等の成立や整備 | 鎌倉時代以前 (●●● 想定) ・金沢鎌倉道 ・古東海道 ・八王子道 ・相州道 ・保土ヶ谷道 | 江戸時代 ・旧東海道 | 明治時代 ・水道道 ・JR線開通 | 大正時代～昭和初期 (●●● 想定) (— 鉄道) ・天王町商店街 ・国道1号 ・国道16号 ・陣中鉄道開通 ・横濱市電 | 戦後以降 (●●● 想定) (— 鉄道) ・環状1号線 ・帷子川整備 |
| 各時代の川筋の形成や整備 | (— 川筋) ・旧今井川 ・旧帷子川 | (— 川筋) ・今井川 | | | (— 川筋) ・帷子川 |
| 関連する主なまちの資源等 | ・社寺 | ・経部本陣、旅籠本金子屋 ・脇本陣跡等史跡サイン ・帷子橋 | ・東京麦酒保土ヶ谷工場 ・富士ガス紡績保土ヶ谷工場跡地一帯 ・南北石油（南北橋） | ・保土ヶ谷橋（震災復興橋） ・保土ヶ谷曹達 ・東洋電機製造 ・洋館付住宅 | ・イコットハウス ・松原商店街 ・YBP ・松並木プロムナード |
| 凡例 | ● | ▼ | ■ | ▲ (洋館付住宅) | ● |

まちの奥行きを継承するための資源と各道と道筋等の性格



2. まち・みちの再生計画 1) 道筋の再生と道路景観づくり

(1) 保土ヶ谷宿エリアの軸となる「旧東海道の道筋の連続性を高める」デザイン

歩行者の安全性や快適性を確保しながら、各区間により道路断面が異なる道筋をつなぎ、歴史的な経緯を継承していくデザインを目指し、以下のデザイン案をもとに沿道状況等を反映しながら実現に向けた具体化を図るものとする。

① 地道風舗装による旧東海道の連続性の確保

デザイン方針

- 旧東海道において共通するデザイン要素の導入による道筋のつながり強化

【舗装デザイン案】

- ～歩行者系の空間、及び旧東海道が連続する交差点の地道風舗装～
- 原則として、旧東海道の歩行者系の空間を地道風舗装（茶系）整備による連続性の確保
 - 断面構成が切替わる交差点内等の舗装（茶系）整備により異なる断面の道筋の連続性創出



舗装デザインイメージ



交差点内舗装イメージ
(本陣前交差点付近)

② 往時の町割を再現する町割石による連続性の強化

デザイン方針

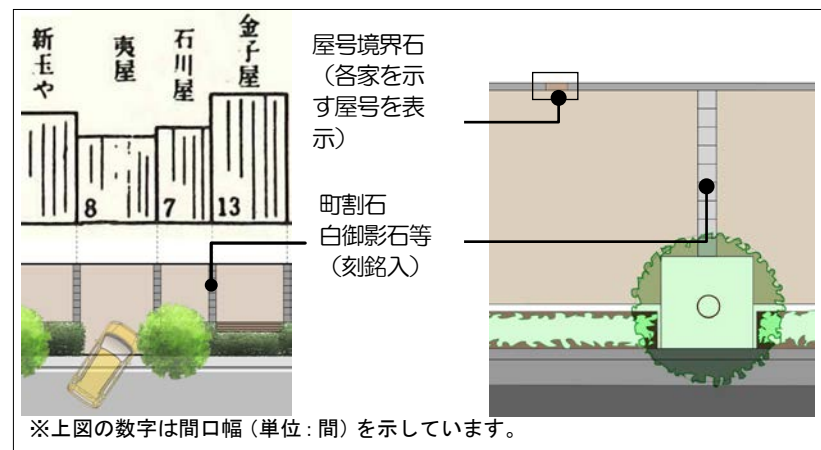
- 往時の建物や街並みが残されていないことから、現況の短冊敷地の敷地割りや文献等から往時のまちの状況を想起させる町割石や屋号・用途等を記す屋号境界石の道路への埋め込み
- 旧河川敷や水路等の歴史的資源（発掘調査等により掘り起こされたもの）の位置を示す等の道路整備検討

【舗装デザイン案】

- ～往時の町割りの位置への町割石と街路樹の配置～
- 町割石（現在も引き継がれる短冊状の敷地形状と往時の町割りを往還町並絵図から町割を解説）を歩道等のデザインに導入
 - 歩道・歩行者通行帯での納まりに配慮した町割石のサイズ検討
 - 対岸の町割の認識を可能とする街路樹配置（町割石延長上に街路樹配置）（植栽可能な歩道のみ）
 - 屋号境界石（往時の屋号・用途を往還町並絵図から解説）を地先境界ブロック等のデザインとして導入検討



出典：横浜市歴史博物館企画展東海道保土ヶ谷宿 軽部紘一氏所蔵



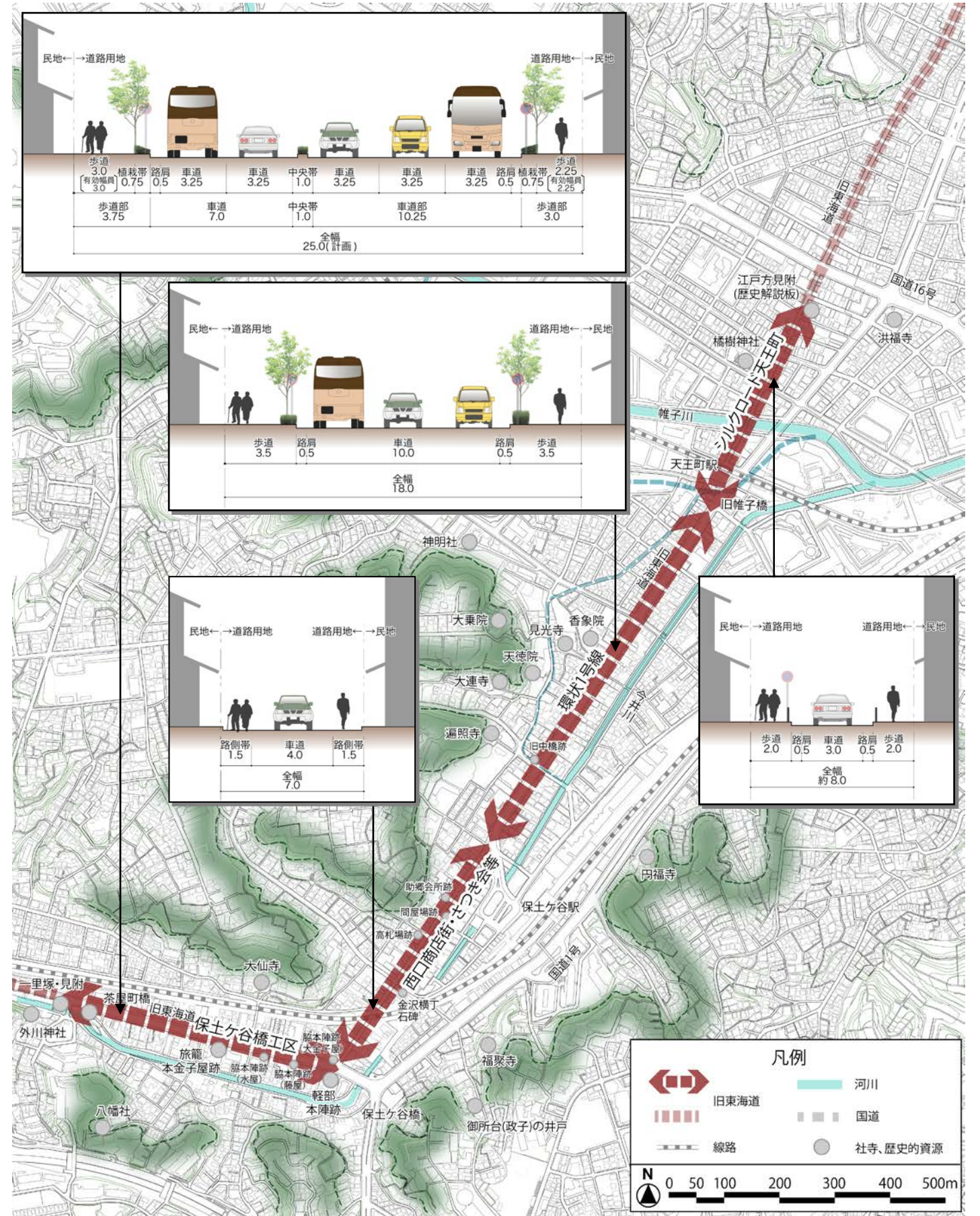
歩道舗装デザインイメージ



町割石のデザインイメージ（白御影石等）



地先境界ブロックのデザインイメージ（白御影石等）



2. まち・みちの再生計画 1) 道筋の再生と道路景観づくり

③ 歴史風情の漂う街並み形成による連続性の強化

デザイン方針





- 旧東海道沿道での建築物や工作物・広告物等の景観誘導や、道路付属物等の修景統一化による歴史風情を感じる街並みとしての連続性確保

【街路樹案】

～宿内外の変化と通りの連続性、夏季の緑陰と季節感を感じる樹種～

- 宿の内外の変化が感じられる様な樹種
- 通りの連続性と場の印象を高めるため、統一した樹種の並木
 - 中高木：回遊の骨格として夏の緑陰と季節感、和の雰囲気を持つ樹種
 - 低木：和の雰囲気と沿道への潤いのある樹種
- 地域住民と市がともに創り育てていける親しみのもてる植栽

旧東海道の歴史を活かしたみちづくり整備計画(案)において市民ワークショップとアンケートにより選定された候補

| 中高木の候補 | | 低木の候補 | |
|---|--|---|--|
| ナンキンハゼ： 江戸時代に渡来したと言われる樹種であり、街路樹として多く用いられ紅葉が美しい。耐暑性に優れる。  | ハクモクレン： 葉が大型・肉厚で日陰を作る樹木として適し、耐寒性・耐風性に優れ、病害虫も少ない。  | オカメザサ： 和の雰囲気をもたらす。刈込の自由度も高い。耐寒性・耐暑性に優れる。  | ベニバナシャリンバイ： バラ科の植物。剪定に強く、仕立ての自由度が高く管理しやすい。  |

【道路付属物等のデザイン案】

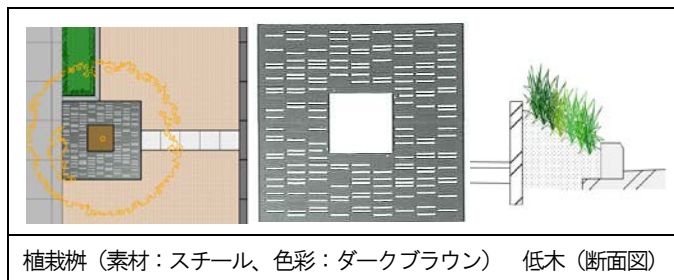
～シンプルで歴史イメージに馴染むデザイン、集約と街並み調和～

- 植栽樹や車止め（ポラード）、横断防止柵・防護柵、道路照明等の道路付属物や道路占用物件については、旧東海道の歴史イメージに馴染むデザイン
- 交通標識類のポールや裏面等、できる限り道路景観を阻害しない様な色彩
- 電線類の地中化による無電柱化や照明や標識類の集約化により、必要な機能を効果的に保つとともに、沿道景観に馴染む取組の展開

【各道路構成要素のデザインイメージ】

I 植栽樹

- 中高木の植栽樹：町割石にあわせた矩形の植栽樹
- 低木の植栽樹：歩道幅員と視覚的な緑ボリュームの確保



III 道路照明・歩道照明 (防犯灯)

- 道路景観を阻害しないよう、直線的でシンプルなデザイン

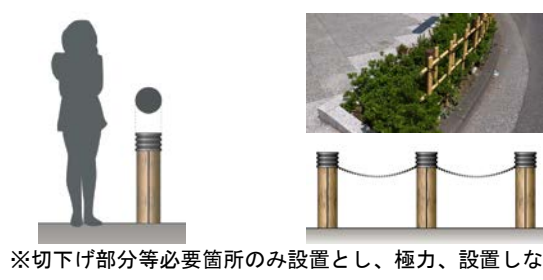
IV 色彩のイメージ

～まち並み景観を阻害しない色彩の誘導～

- 旧東海道路部の標識ポール等、地上機器類等は、落ち着いたダークブラウン系の色彩で統一

II 車止め (ポラード)・横断防止柵

- 木材等で鋳鉄製円柱状心材を覆う
- 柔らかさと温かみのある表情の演出



色彩イメージ
ダークブラウン
(マンセル値 10YR2/1)



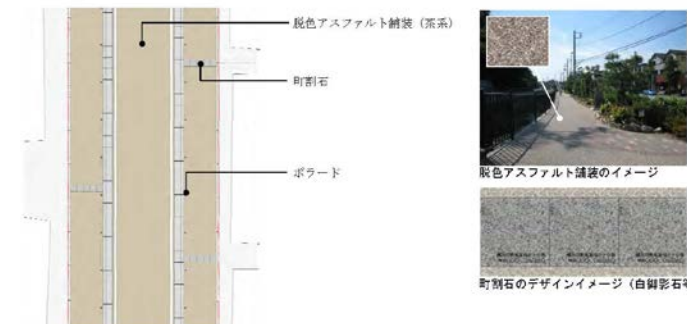
【4つの区間毎の標準デザインイメージ (平面・断面等)】

シルクロード天王町付近の区間

■ 商店街等沿道の活動を支えるデザイン

- 鉄道南北での旧東海道の道筋の連続性を確保する統一性のある設え
- 商店街の回遊性を阻害しない安全で快適な歩行空間
- 街並み景観を阻害せず、イベント等に利用しやすい道路付属物等の集約や色彩配慮

■ 平面図



■ 代表断面図

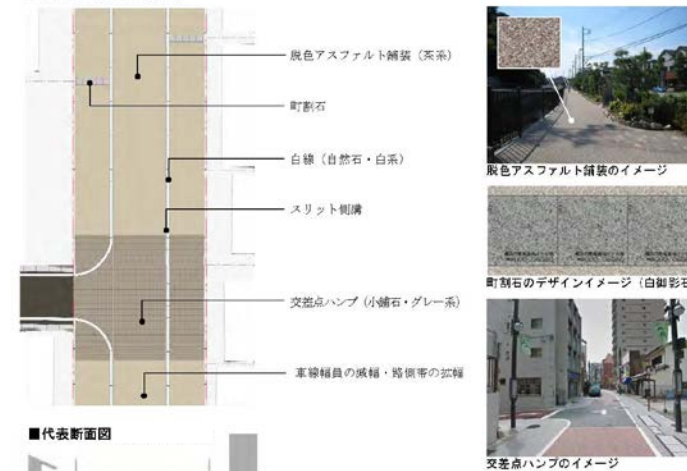


保土ヶ谷駅西口商店街付近の区間

■ 継承されてきた道幅を活かした、イベント利用しやすいデザイン

- 宿時代から継承されている道路幅員を生かした街道風情を感じる設え
- 歩行者の安全性を高める歩車共存の道路空間

■ 平面図



■ 代表断面図

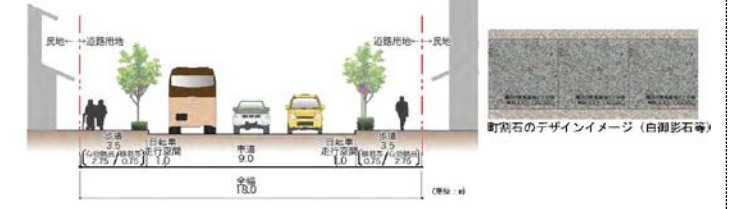


環状1号線区間

■ 通りの一体性と宿内の連続性を高めるデザイン

- 旧東海道の道筋の連続性を確保する統一性のある設え
- 歩行者の安全性に配慮しつつ、沿道両側を含めた通りの一体性の確保
- 街並み景観を阻害しない道路付属物等の集約や色彩配慮

■ 代表断面図



※都市計画道路として拡幅整備済みであるため整備の緊急性はないが、今後道路の補修等に合わせて、旧東海道の道筋の連続性を確保するための整備を段階的に進めていく。

国道1号線区間

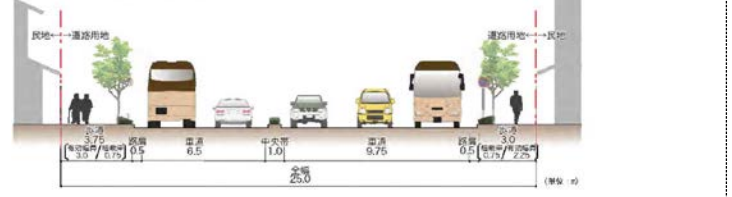
■ 歴史資源と調和し、歩行空間の快適性を高めるデザイン

- 旧東海道の道筋の連続性を確保する統一性のある設え
- 歩道と沿道敷地側でまとまりのある空間の確保
- 街並み景観を阻害しないよう道路付属物等の集約や色彩配慮

■ 平面図



■ 代表断面図



(2) 各時代の道をつなぎ、街の奥行きをつくる道筋・辻のデザイン

歩道及び歩車が共存する車道・交差点において、積層する歴史による街の奥行きを感じられる道路空間とする。

【舗装デザインについての考え方】

河道跡や参道、近代の各種工場等の史実を継承し地域資源とのネットワークを図るため、歴史背景に関連する自然石やガラス等の素材の活用などにより、みちと関連する歴史資源を想起させる設えとする。

また、歴史理解を深めるため、まち歩きガイドや歴史解説サインにデザインパターン解説の記載を検討する。

中世の歴史的資源との関連性のある横道(旧東海道を除く):
旧東海道と差別化しつつ、往時のみちの風情を感じられるよう、濃茶系脱色アスファルト舗装とする。

近代の歴史的資源との関連性のある横道:
近代化の過程で役割を果たした道であることを伝えるため、灰色系脱色アスファルト舗装とする。

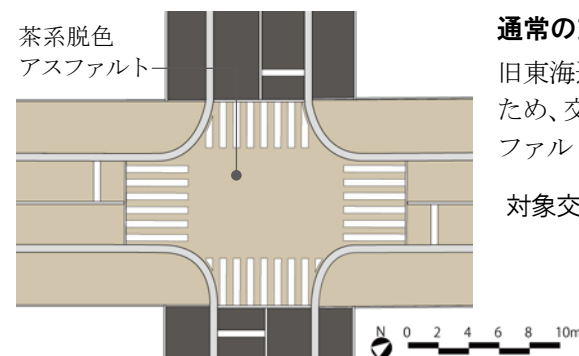
その他の横道: 通常のアスファルト舗装とする。

(参考) 旧東海道: 往時のみちの風情を感じられるよう、茶系脱色アスファルト舗装とする。

(参考) 水に関する舗装: 川等の水の流れがあった場所は、水の流れやさざ波のイメージを喚起する様、白系の小舗石舗装とする。

【辻デザインについての考え方】

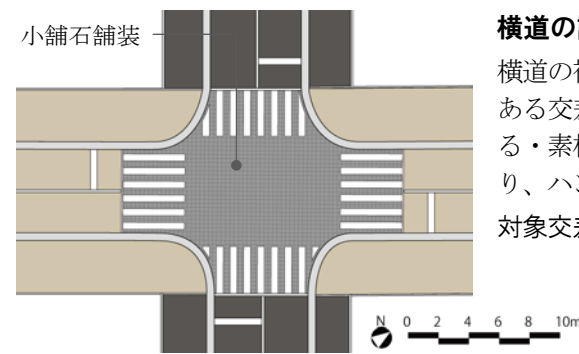
原則として、旧東海道の道筋に連続性を持たせる設えとする。



通常の交差点:

旧東海道の道筋に連続性を持たせるため、交差点内の舗装は茶系脱色アスファルトによる地道風舗装とする。

- 対象交差点: ②松原商店街入口辻
④水道道辻
⑥大門辻
⑨環1辻



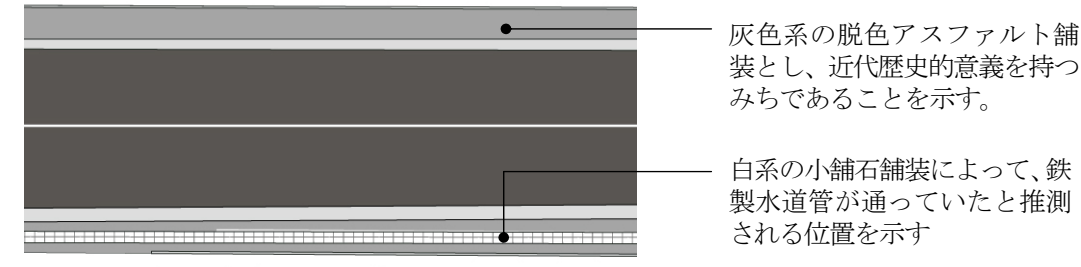
横道の認識性が低い交差点:

横道の視認性が低く、安全性の課題がある交差点では、舗装の色を切り替える・素材を小舗石等に変更する等により、ハンプを設ける。

- 対象交差点: ①八王子道追分辻
③天王町辻
⑦天徳院参道辻
⑧旧中橋板橋辻
⑩金沢鎌倉道水道石橋辻

①回遊ネットワークを形成する古道や河川沿いの道筋の整備イメージ

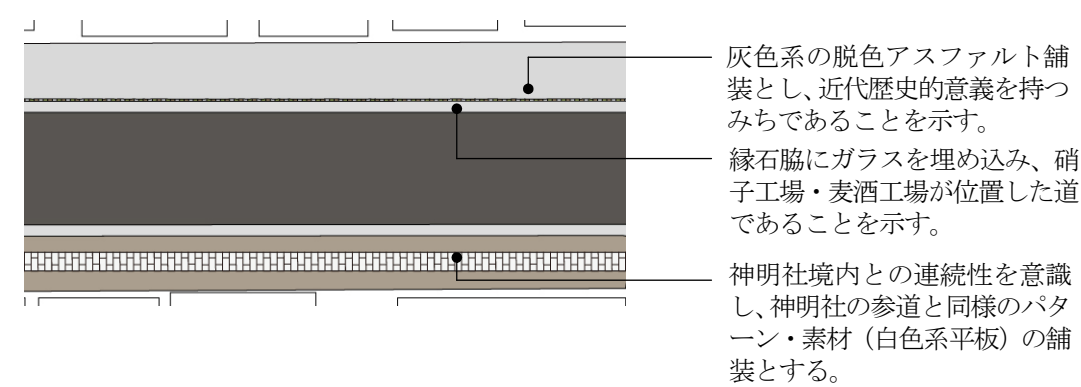
i) 水道道: 日本初の鉄製水道管が通り、近代化の先駆けとなったみち



灰色系の脱色アスファルト舗装とし、近代歴史的意義を持つみちであることを示す。

白系の小舗石舗装によって、鉄製水道管が通っていたと推測される位置を示す

ii) 神明社参道: 保土ヶ谷発展の中心的役割を果たしたみち

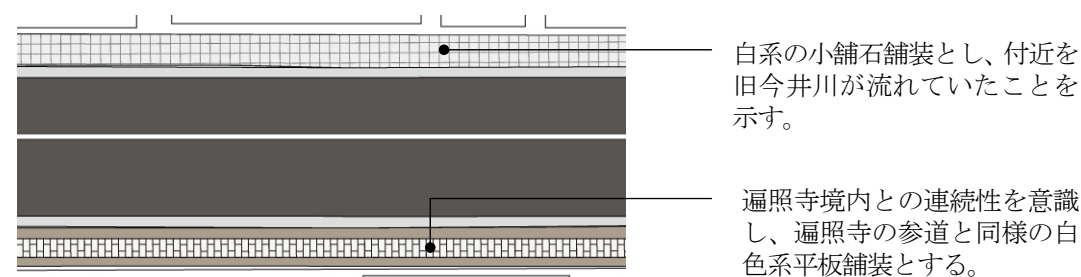


灰色系の脱色アスファルト舗装とし、近代歴史的意義を持つみちであることを示す。

縁石脇にガラスを埋め込み、硝子工場・麦酒工場が位置した道であることを示す。

神明社境内との連続性を意識し、神明社の参道と同様のパターン・素材(白色系平板)の舗装とする。

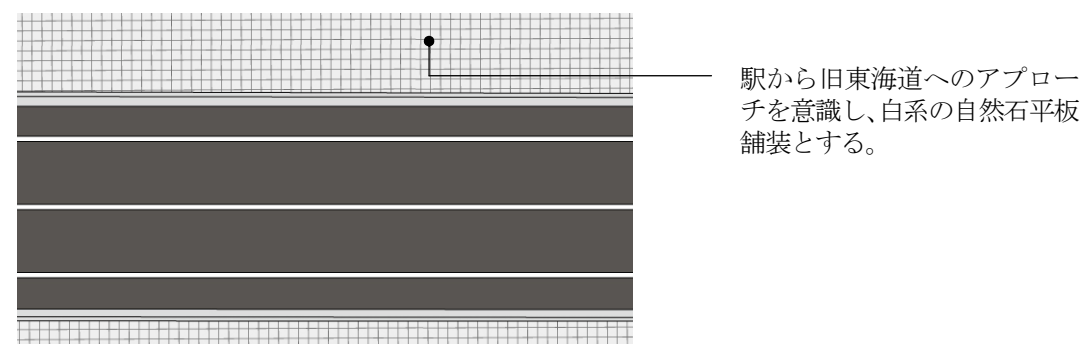
iii) 遍照寺参道: 旧今井川の沿いのみち



白系の小舗石舗装とし、付近を旧今井川が流れていたことを示す。

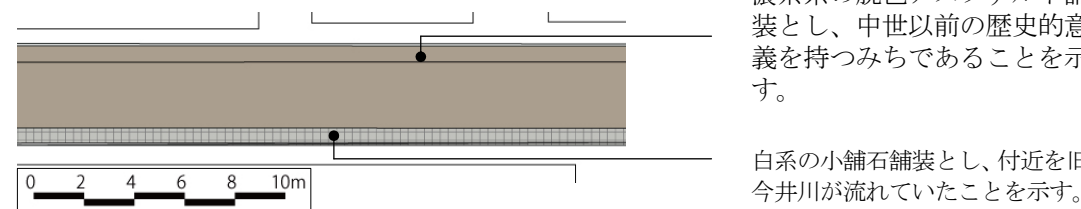
遍照寺境内との連続性を意識し、遍照寺の参道と同様の白色系平板舗装とする。

iv) 保土ヶ谷駅への道: 現在の保土ヶ谷の交通を支えるみち



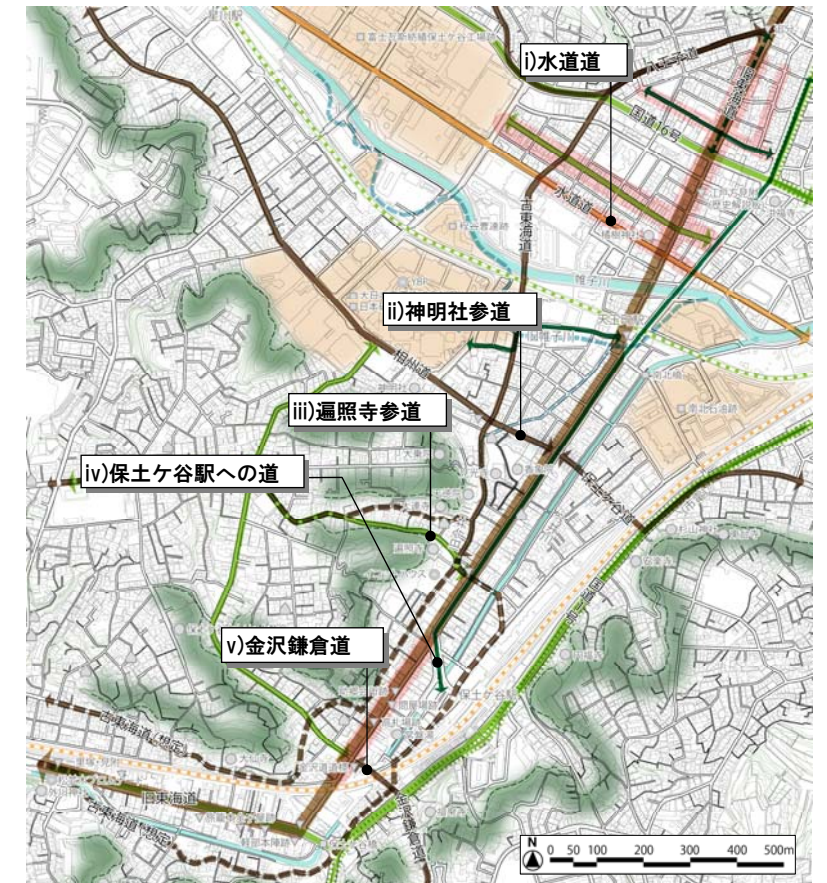
駅から旧東海道へのアプローチを意識し、白系の自然石平板舗装とする。

v) 金沢鎌倉道: 江戸と金沢・鎌倉をつないだみち



濃茶系の脱色アスファルト舗装とし、中世以前の歴史的意義を持つみちであることを示す。

白系の小舗石舗装とし、付近を旧今井川が流れていたことを示す。



②まちへのつながりと回遊性を高めていく辻の整備

整備方針

主要な道筋等が交差する「辻」は、各時代の歴史の継承のみならず、地域の資源をつなぎ回遊性を高めるとともに、暮らしにおいてまちの構成を明確化し記憶に留める重要な場所であることを踏まえ、デザイン等を検討する。

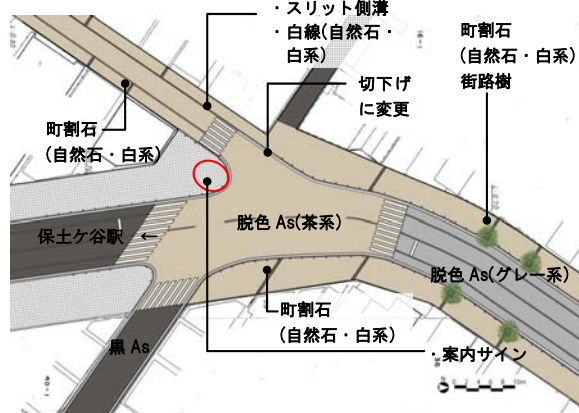
【デザイン案】

旧東海道を軸として各資源や道筋につながる重要な辻をまち・まちの構成をもとに抽出しデザインを検討した次の案について、沿道敷地や各種設計条件をもとに実現に向けたデザインの納まり検討を図るものとする。

また、その他の辻については、本計画の主旨を鑑み、道筋の連続性と周辺の資源との関係、該当する辻の特性を考慮して設えを検討するものとする。

⑨環1辻

幅員の異なる環状1号線と旧東海道が分岐し、保土ヶ谷駅前とつながる交通量の特に多い交差点

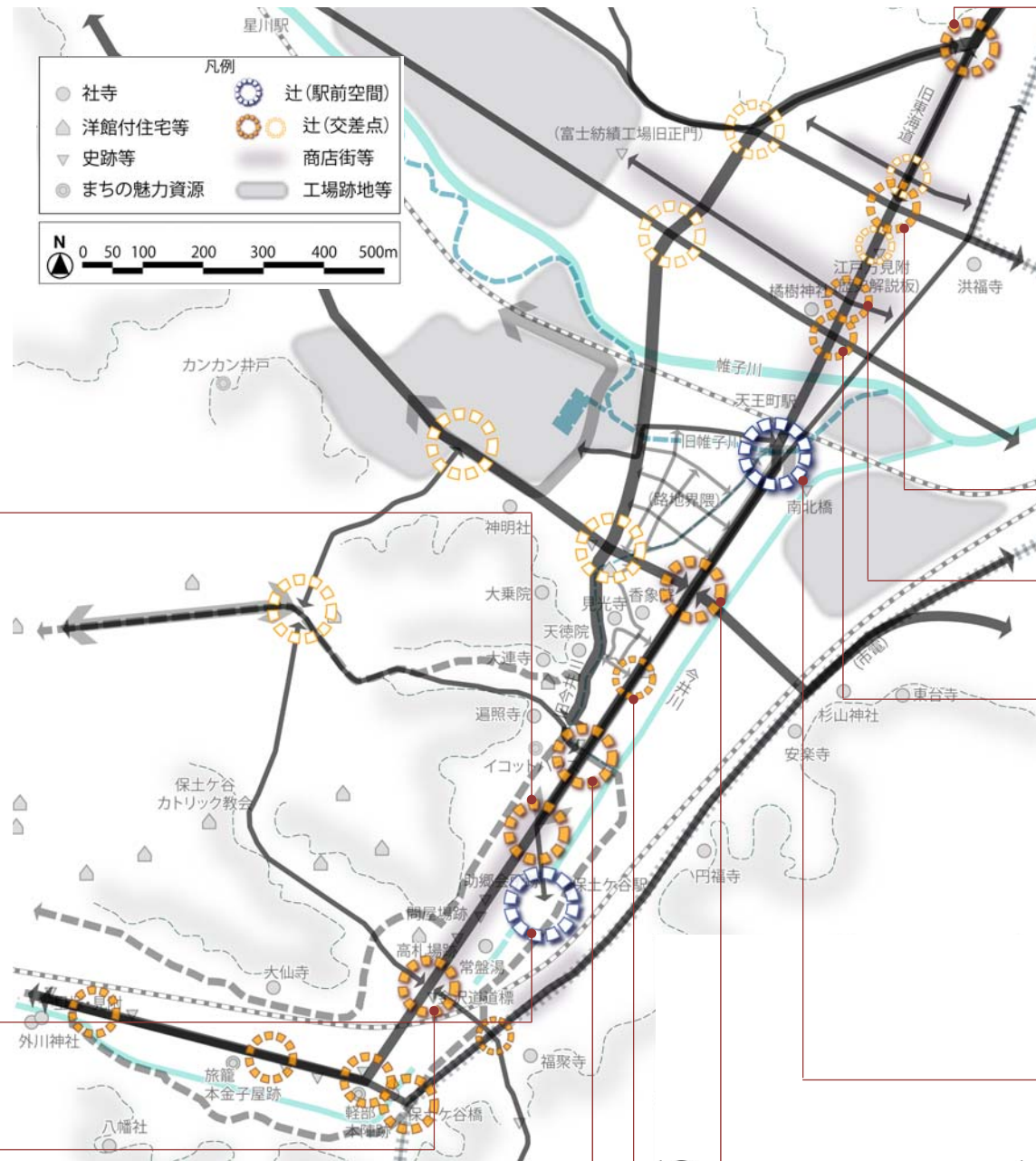
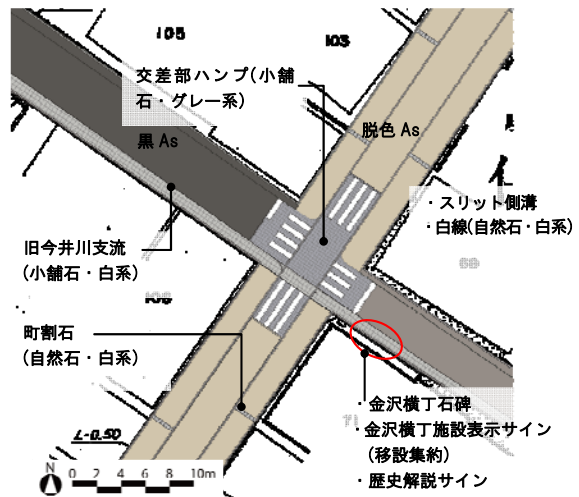


⑩保土ヶ谷駅西口駅前辻（駅前空間）（※重点地区に記載）

保土ヶ谷宿まち歩き等の起終点として、旧東海道への誘導が重要となる場所

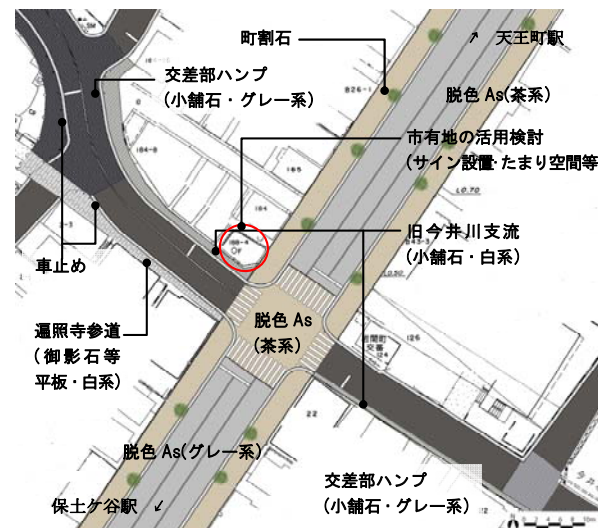
⑪金沢鎌倉水道石橋辻

旧東海道の道幅を維持した地元密着系商店街と古道である金沢鎌倉水道との交差点で歩行者の安全性向上が強く求められている場所



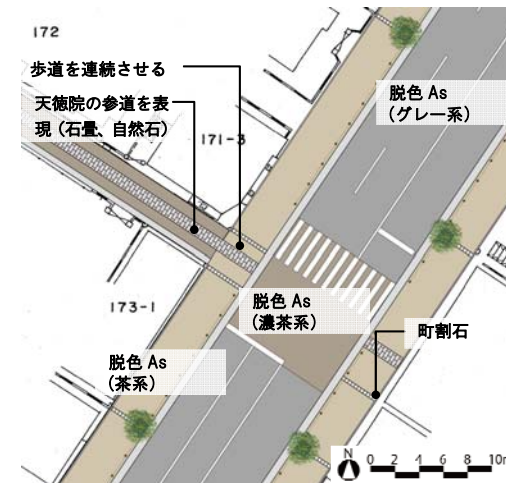
⑧旧中橋板橋辻

月見台地区と環状1号線をつなぎ旧参道と水路が交差する旧東海道、古東海道との交差点



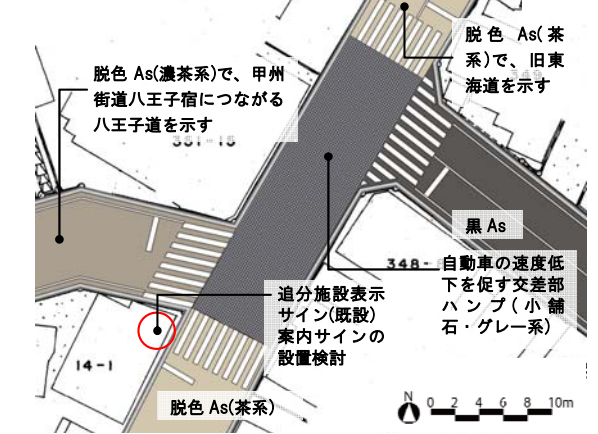
⑦天徳院参道辻

社寺が密集し、参道の空間を旧東海道まで延長できる交差点空間



①八王子道追分辻

八王子道（シルクロード）との江戸時代以前からの分岐点



②松原商店街入口辻

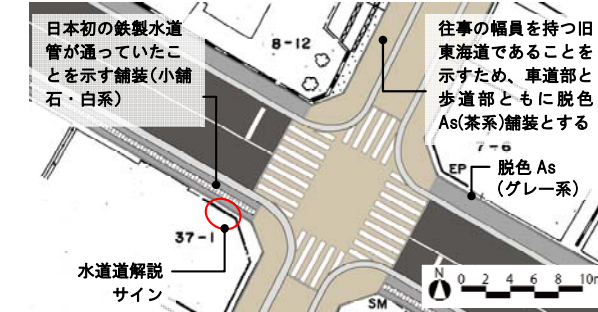
洪福寺松原商店街の商業環境の南側の玄関口となる交差点

③天王町辻

旧富士紡績保土ヶ谷工場正門に向かう道として発展した天王町商店街と表門通りの交差点

④水道道辻

日本初の鉄製水道管が通った近代歴史的意義の高いみちとの交差点

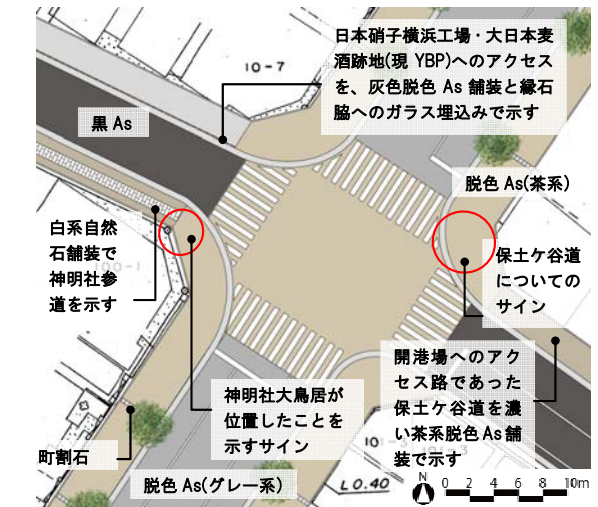


⑤天王町駅前辻（駅前空間）（※重点地区に記載）

旧帷子橋が架かっていた場所であり、陣中鉄道から現在の相鉄に至る鉄道の歴史を支える、保土ヶ谷宿まち歩き等の起終点となる空間。

⑥大門辻

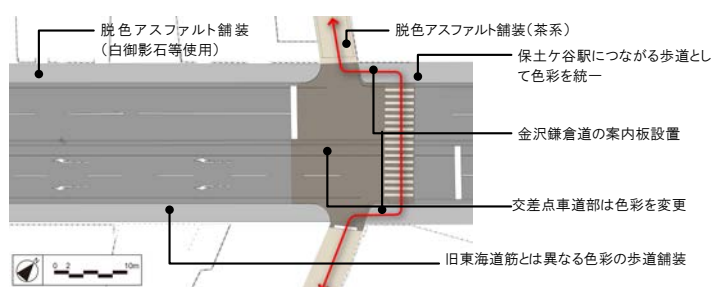
相州道、保土ヶ谷みちと交差し、東西方向との接点となる重要な交差点



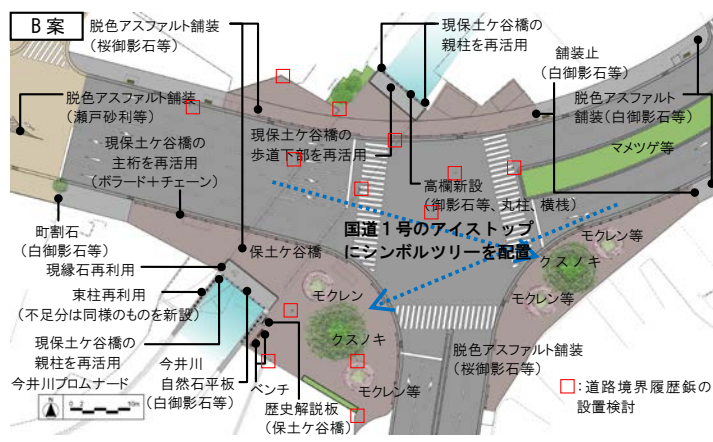
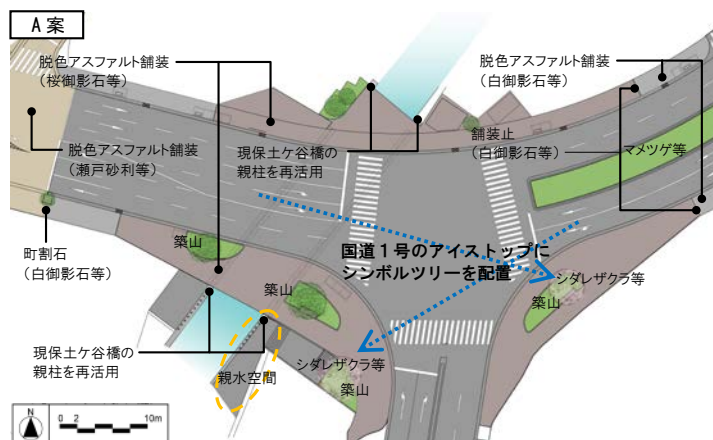
2. まち・みちの再生計画 1) 道筋の再生と道路景観づくり

(参考) 保土ヶ谷橋工区の辻のデザイン (旧東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備計画 (案) (平成 26 年 3 月) 抜粋)

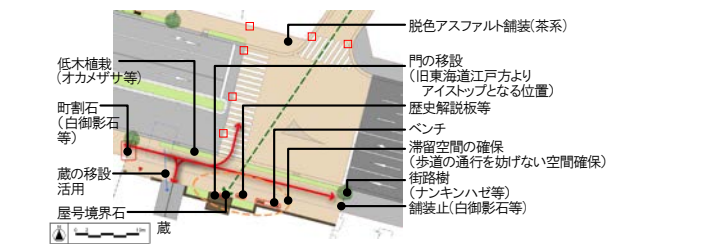
⑫ 金沢鎌倉道への回遊を促す「金沢鎌倉道辻」



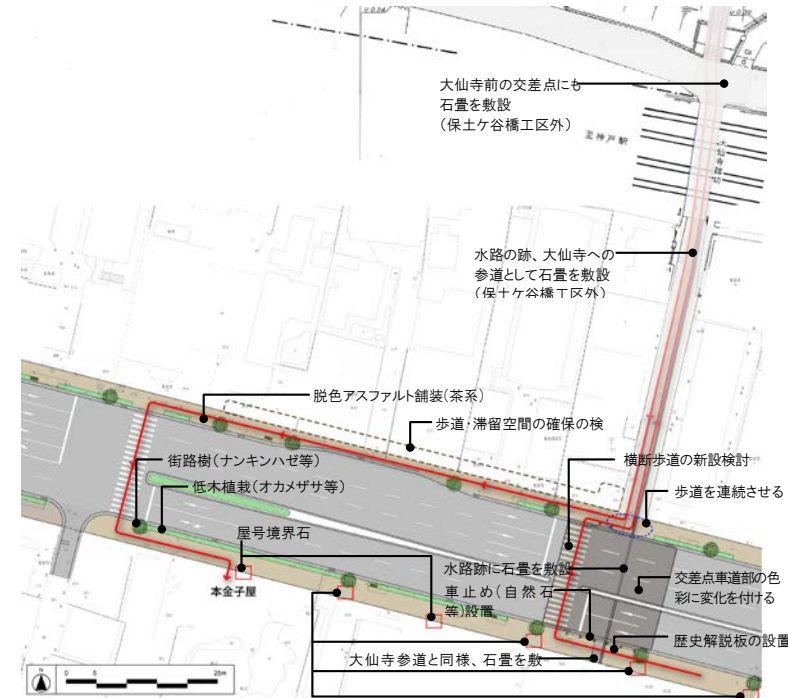
⑬ 新旧の東海道等とのつながりを生み出し駅伝の象徴となる「保土ヶ谷橋辻」



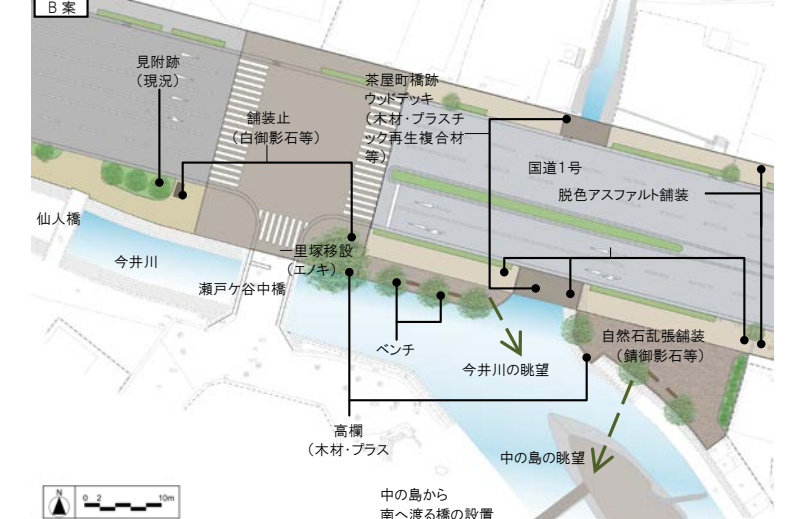
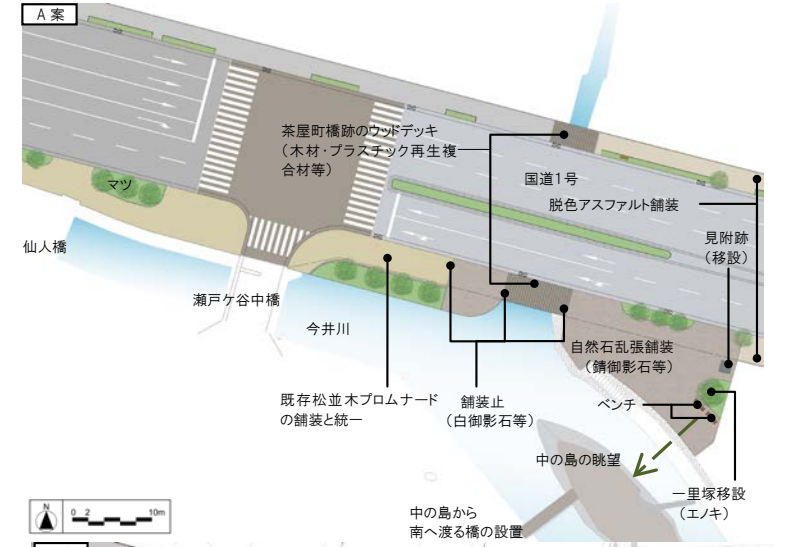
⑭ 歴史まち歩きの回遊拠点としての「本陣跡辻」



⑮ 東海道を横断し今井川に流れる水路があった「大仙寺前石橋辻」



⑯ 宿内外を分けた「茶屋町橋辻」



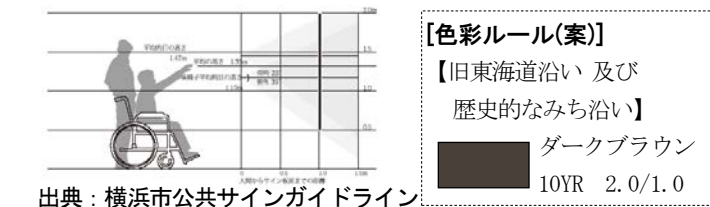
⑳ 各種資源への回遊起点となるサイン等の整備

まち歩きをサポートし、回遊性をより高め、地域の歴史認識の理解を深めるため、歩行者案内サインや歴史解説板などについて再整備・新設を行い、江戸時代から近代にかけての歴史イメージを付与するとともに、デザインに一体感・統一感を持たせる。

i) サインデザインの考え方

(i) サインの形態等に関する考え方

- 「見やすい、読みやすい、見つけやすい」デザインとする。
- 盤面はシンプルで読みやすい内容及び色彩とする。
- フレームは耐久性を考慮した素材とする。
- フレーム色彩は歴史 (近世) 的な施設等に馴染む色彩とし、統一性を持たせる。
- 地図や図版を掲載する場合は大人～子供、車いす利用者の視認性に配慮し、目線よりやや下の位置 (135cm 程度) に地図を表示する。

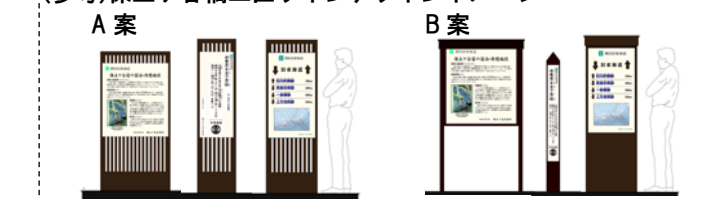


出典：横浜市公共サインガイドライン

(ii) サインの盤面表示に関する考え方

- 表示内容は現況を再利用し、保土ヶ谷橋工区外のサインとの共通性を持たせる。
- 基本レイアウトは、現況表示を踏襲した「施設・資源名」、「解説文」、「図柄の配置」等とする。
- 表示面のベース色彩は、現況と同様に歩行者の見えやすさ (例；白色～クリーム色の暖色系) を考慮する。
- 旧東海道に設置されたサインの統一性を図るために、五区連携によるキャッチフレーズ (『横浜旧東海道』) を記載し、保土ヶ谷区マークを文頭に記載する。
- 歴史を偲ぶことができるよう古地図等の活用も検討する。
- 外国人の利用に配慮し、多言語で記載する。

(参考) 保土ヶ谷橋工区サインデザインイメージ



ii) 配置・記載内容等の考え方

サインの配置や盤面への記載内容については、実際に案内を実施する地域活動団体等の意見等を参考としながら、資源等の位置や利用者属性、滞留等の特性に配慮したものとする。

(参考) 保土ヶ谷橋工区サイン配置計画 (概要)

- 交差点等の安全性に配慮した配置とする。
- 利用する人が分かりやすい配置とする。
- 施設との一体性が高まるよう、民地を含めて設置個所を検討する。
- 歩道内については、低木植栽内、又はその隣接地に配置し集約を図る。
- 保土ヶ谷らしさや歴史を紹介するための新たなサイン設置を道路整備にあわせて検討する。



2) 情報発信・交流促進拠点づくり

生活ゾーンの結節点における拠点機能と地域資源のテーマを活かした交流促進

地域内での保土ヶ谷宿周辺エリアに対する認知度を高めるとともに、地域外への情報発信や、地域内・地域内外・多様な主体・世代の交流の促進も望まれている。そのため、旧東海道付近で各生活ゾーンをつなぐ結節点に拠点機能を設けることで、保土ヶ谷宿周辺エリアのつながりを高めながら交流の促進を図っていく。

また、各時代の資源を見直し、各種テーマでの交流の促進を活性化することで、地域の歴史や文化等にもとづく地域性を高めていく。

■保土ヶ谷宿周辺エリアでの情報発信・交流促進の方向

【現在のイメージ・認知と課題】

- ・宿時代に限定されたイメージを持たれやすい傾向がある。一方で、旧東海道保土ヶ谷宿の認識は地域住民にも十分に伝わりきっていない。
- ・中世～現代までの連続した歴史と、各時代の資源等が多くあるが認知度が低い。
- ・地域の内外に向けた旧東海道保土ヶ谷宿の情報発信がより活発に行われることが望まれている。
- ・現在の暮らしの使われ方は、いくつかのゾーンに分かれ、交流もそれぞれに特性と課題がある。

【保土ヶ谷らしさを高めていく情報発信・交流促進の視点】

- ・旧東海道保土ヶ谷宿の歴史の情報発信と交流の促進
- ・中世～現代等の時代の幅の活用
- ・地域の歴史と地域住民の利用の連動・一体化
- ・既存の交流関連施設の活用促進
- ・多様な主体の交流促進（地域住民、商業者・従業者、来街者、各世代など）

■4つの生活ゾーンでの特徴と課題の把握

【現在のみちの形態と暮らしの視点からの4つの生活ゾーン】

- A. 洪福寺松原商店街・天王町商店街ゾーン
- B. 旧東海道・環状1号周辺ゾーン
- C. 保土ヶ谷駅周辺・西口商店街ゾーン
- D. 本陣跡周辺・国道1号保土ヶ谷橋工区ゾーン

□既存の交流施設の状況

- 各時代の歴史的資源の状況
 - ・古道・旧道・河川等
 - ・社寺、史跡等
 - ・工場跡地、住宅地等
- 既存の交流施設の状況
 - ・駅、公共施設等
 - ・商店街、業務エリア等
 - ・まちかど博物館等民間交流施設等
 - ・公園・広場等

旧東海道のつながりを活かした交流

保土ヶ谷宿周辺エリアに望まれる情報発信・交流促進機能

■結節点やテーマによる交流の促進

【ゾーンの結節点での交流ポイントの形成】

- 天王町駅前周辺
- 保土ヶ谷小学校跡地・保土ヶ谷駅周辺
- 本陣跡周辺

【テーマ別の交流促進】

- 近代産業等の周知・活用
- 社寺等を活かした地域内外の交流
- 学校と連携した担い手育成
- 商店街や店舗等との連携促進
- ...

【生活ゾーンと結節点の考え方】

4つの生活ゾーンごとに、各種の交流施設等の分布と特性を把握し、交流促進に向けた課題抽出を行う。

ゾーン相互の課題への対応やゾーン相互の特性を活かした交流促進を図るためには、各ゾーンの結節点も重要となる。

A. 洪福寺松原商店街・天王町商店街ゾーン

近代に工場（紡績・ガラス等）が集積し、現在では天王町商店街、洪福寺松原商店街、イオンなどの商業施設が集積するゾーン。

B. 旧東海道・環状1号周辺ゾーン

相鉄線天王町駅とJR保土ヶ谷駅をつなぐ環状1号沿道で、下町の住宅地が広がるゾーン。

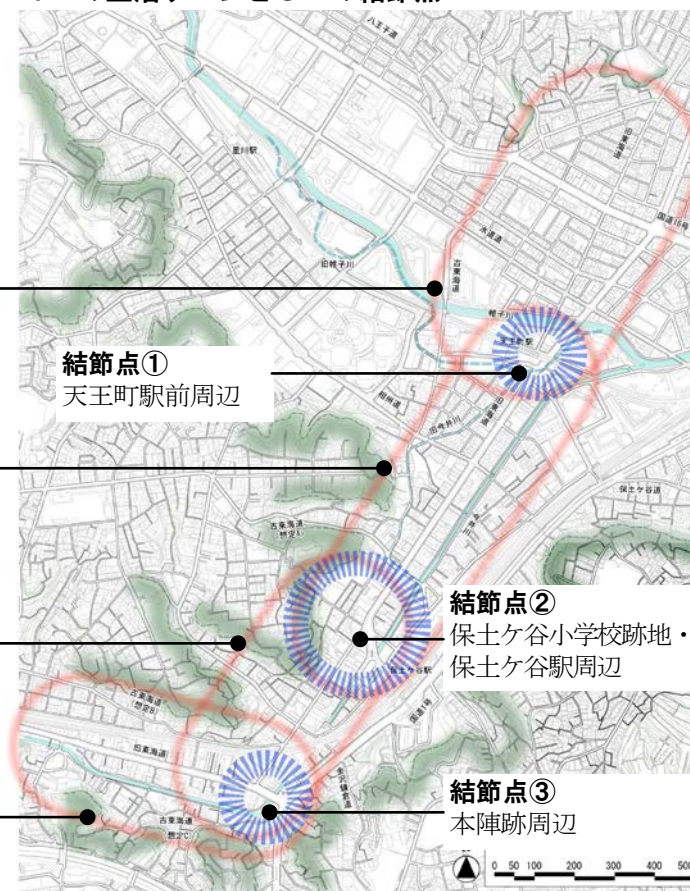
C. 保土ヶ谷駅周辺・西口商店街ゾーン

JR保土ヶ谷駅西口及び保土ヶ谷駅西口商店街周辺で、旧東海道保土ヶ谷宿の中心区域であったゾーン。

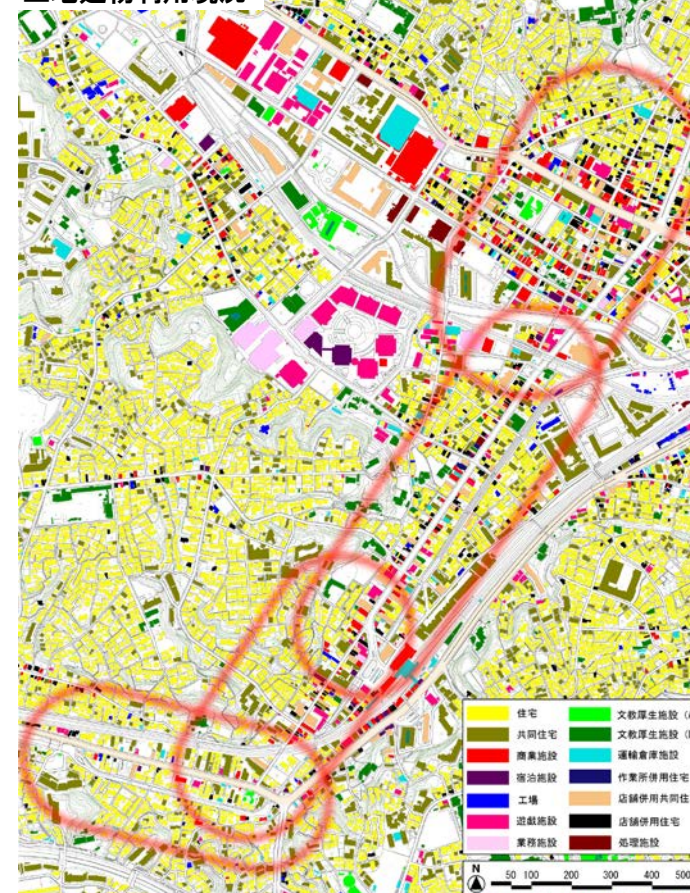
D. 本陣跡周辺・国道1号保土ヶ谷橋工区ゾーン

国道1号沿線の、旧東海道と重複する区域で、旧保土ヶ谷本陣等

4つの生活ゾーンと3つの結節点



土地建物利用現況



旧東海道の道筋を通した全体での交流促進の課題

- 休憩施設等の不足
 - ・トイレの不足
 - ・休憩場所の不足
- 情報発信機能の不足
 - ・情報案内施設の不足
 - ・地域PR施設の少なさ
 - ・地域内外交流施設の少なさ
- 駅前等の起点機能、交通結節機能の不足
 - ・駐輪場の不足
 - ・情報案内機能の不足
 - ・放置駐輪や旧東海道へのつながりが感じられない駅前景観の課題
- 道路の魅力、安全性の課題
 - ・道筋のつながりや旧東海道らしさの不足
 - ・歩行者通行の安全性の課題
 - ・滞留空間の不足

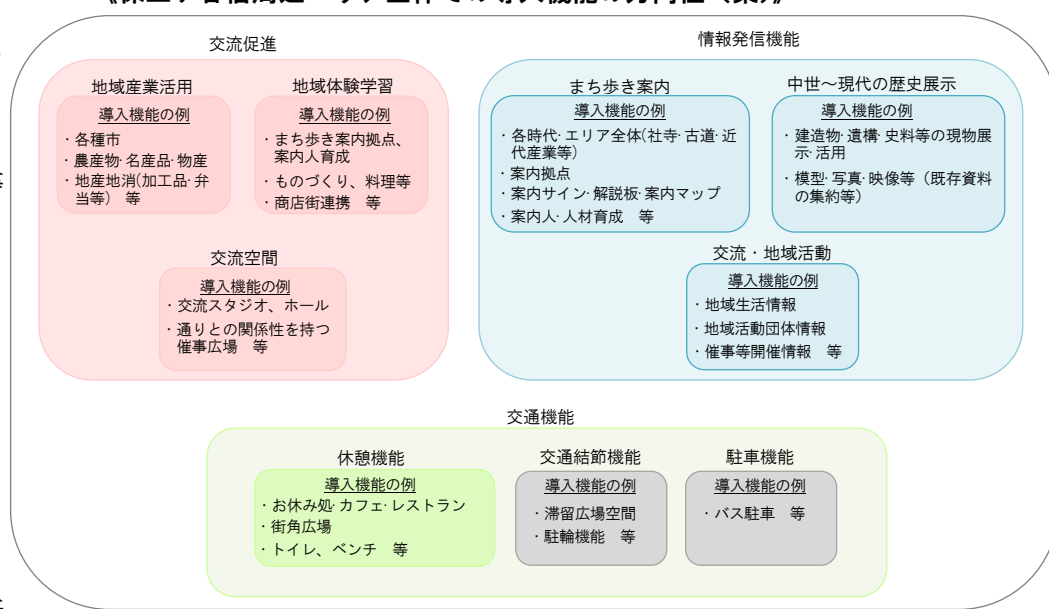
(1) 4つの生活ゾーンをつなぐ3つの交流結節点の形成

各結節点で場所の特性を活かし、役割分担を行いながら機能導入を図る。また、3つの結節点のみでなく、保土ケ谷宿周辺エリアでの導入が望まれる機能については、既存の公共施設や商店街・店舗等との連携を図りながら、機能の導入や利用等を促進していく。

《エリア全体でみる主な課題》

- 地域資源の存在と情報発信の不足
 - ・宿時代の中心機能の遺構・社寺・古道・近代産業遺産 等
 - ・商店街・生鮮・最寄品店舗 等
 - ・催事・立寄り店舗 等
 - ・公園・散策路・市民利用施設等の情報等
- 情報発信機能の不足
 - ・まち案内、地域PR
 - ・地域活動情報等地域内交流情報
 - ・催事等地域内外交流情報等
 - ・情報案内板の不足や設置場所・溜り空間
- 休憩場所
 - ・お休み処、トイレ等の不足
- 催事スペースの不足
 - ・イベント可能広場空間等
- 交通結節点機能の不足
 - ・滞留広場の不足・駐輪施設の不足

《保土ケ谷宿周辺エリア全体での導入機能の方向性（案）》



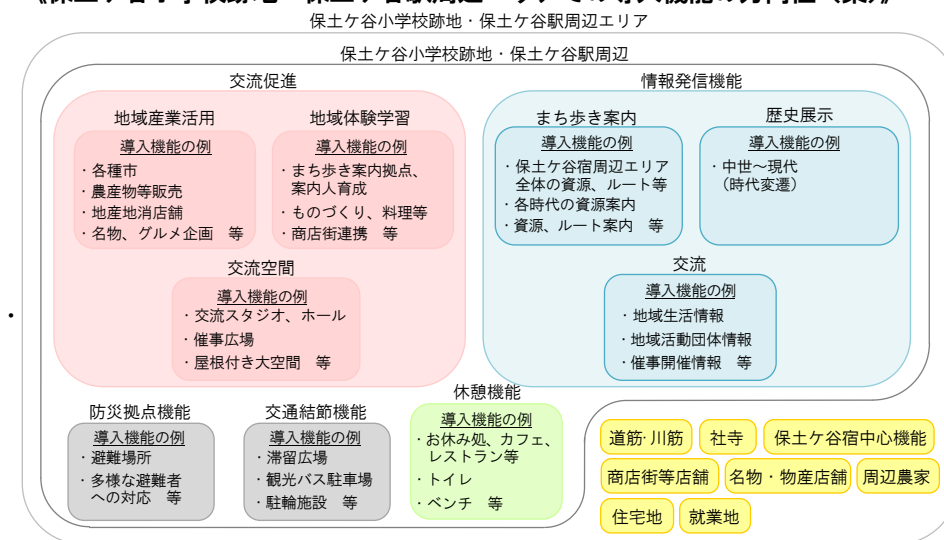
②保土ケ谷小学校跡地・保土ケ谷駅周辺

歴史・生活・交通等の地域中心として、地域交流と地域内外交流を発展させる拠点機能

《結節点の特性》

- ・交通結節点
- ・まち歩き起点
- ・旧東海道と駅とのつながり
- ・地域中心であった学校跡地 等

《保土ケ谷小学校跡地・保土ケ谷駅周辺エリアでの導入機能の方向性（案）》



《主な交流等の特性と課題》

- B.旧東海道・環状1号線周辺ゾーン**
- 地域資源の存在と情報発信の不足
 - ・社寺・古道・近代産業遺産、催事・立寄り店舗等情報等の不足
 - 生活支援施設等の利便性の低さ
 - ・生鮮、最寄品店舗等
 - 催事スペースの不足
 - ・イベント可能広場空間等

C.保土ケ谷駅周辺・西口商店街ゾーン

- 宿時代の中心機能の遺構等の情報発信の不足
 - ・高札場跡、問屋場跡、助郷会所跡等
- 生活支援施設等の利便性の低さ
 - ・生鮮、最寄品店舗等

旧東海道の道筋

- 情報発信機能の不足
 - ・まち案内、地域PR
 - ・地域活動情報等地域内交流情報
 - ・催事等地域内外交流情報等
- 休憩施設等の不足
 - ・お休み処、トイレ等の不足
- 交通結節点機能の不足
 - ・駐輪施設等

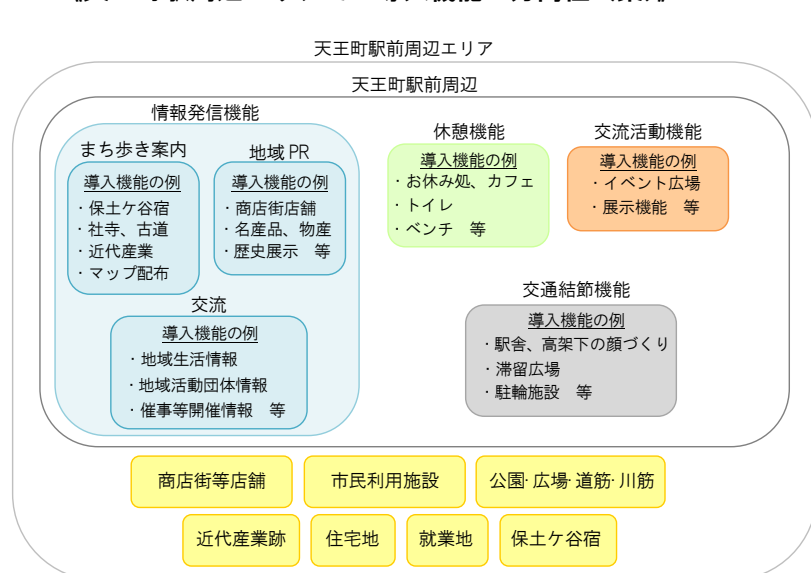
①天王町駅周辺

旧東海道の道筋を活かしながら中世～近代の歴史と現代の地域情報を発信し、地域内と地域内外を結びつける拠点機能の導入

《結節点の特性》

- ・交通結節点
- ・まち歩き起点・中継地
- ・旧東海道の道筋と屈折点
- ・駅前公園の立地と旧帷子橋 等

《天王町駅周辺エリアでの導入機能の方向性（案）》



《主な交流等の特性と課題》

- A.洪福寺松原商店街・天王町商店街周辺ゾーン**
- 地域資源の存在と情報発信の不足
 - ・近代産業遺産、商店街、公園・散策路・市民利用施設等の情報等
- B.旧東海道・環状1号線周辺ゾーン**
- 地域資源の存在と情報発信の不足
 - ・社寺・古道・近代産業遺産、催事・立寄り店舗等情報等の不足
 - ・情報案内板の散在等による分かりにくさ
 - 交通結節点機能の不足
 - ・滞留広場の不足
 - ・駐輪場等にふさがれた駅前空間
 - 催事スペースの不足
 - ・イベント可能広場空間等

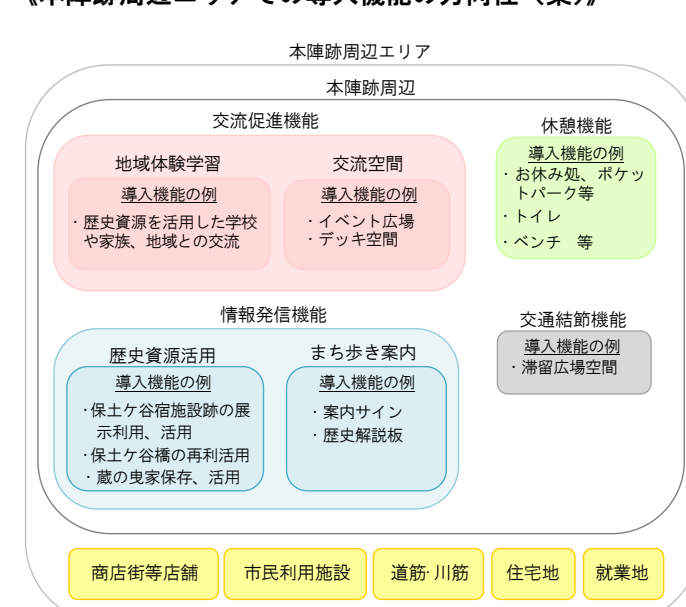
③本陣跡周辺

宿時代・近代の遺構等の情報を発信し、地域内外交流を発展させる拠点機能

《結節点の特性》

- ・宿時代の政治的中心地
- ・近代土木・建造物等の遺構・遺産等の歴史の集積
- ・昔の幅員を残す西口商店街と拡幅された国道1の結節点 等

《本陣跡周辺エリアでの導入機能の方向性（案）》



《主な交流等の特性と課題》

- C.保土ケ谷駅周辺・西口商店街ゾーン**
- 宿時代の中心機能の遺構等の情報発信の不足
 - ・高札場跡、問屋場跡、助郷会所跡等
 - 生活支援施設等の利便性の低さ
 - ・生鮮、最寄品店舗等
- D.本陣跡周辺・国道1号保土ケ谷橋工区ゾーン**
- 宿時代の中心機能の遺構等の情報発信の不足
 - ・本陣・脇本陣・旅籠等
 - 生活支援施設等の利便性の低さ
 - ・生鮮、最寄品店舗等

旧東海道の道筋

- 休憩施設等の不足
 - ・お休み処、トイレ等の不足
- 情報発信機能の不足
 - ・まち案内、地域PR

(2) 歴史・地域資源・人材・活動を活かしたテーマ別の交流促進

旧東海道保土ヶ谷宿周辺エリアでは、観光まち歩きとしての旧東海道旧宿場町のイメージが強く持たれている。また、大規模な土木工事や集落移転が行われた道筋と宿場町でもあり、近世以降も鉄道の整備や道路拡幅・河道整備、産業立地、住宅地開発など、旧東海道を軸とした様々なまちづくりが行われてきている。

一方で、旧東海道保土ヶ谷宿時代の認知は、サイン整備等が進められたことにより、地域外だけでなく地域住民等へもその歴史が伝わりつつあるが、宿以外の各時代の歴史や多様な資源の認知度はまだ低く、地域のアイデンティティを高めていくためにも、交流資源として活用していくことが望まれる。そのため、これまでに蓄積されてきた歴史を活かしたテーマ別での交流の促進を図っていく。

①旧東海道保土ヶ谷宿の歴史を活かした交流

- ～本陣跡や本金子屋跡、帷子橋、その他多くの宿時代の資源など、今までも知られてきた保土ヶ谷宿の歴史をさらに深め活用～
- ・歴史解説版や案内サインの統一、再配置、補足
- ・現存する歴史的建造物、史料等の保存、継承、活用
- ・天王町駅、保土ヶ谷駅等まち歩きの起点などでの案内情報
- ・地域活動団体との連携促進 等



本金子屋



歴史とひとにふれあうよりみちこみちマップ

②近代における一大産業集積の歴史を活かした交流

- ～富士瓦斯紡績や東京麦酒、南北石油など、時代を牽引した産業跡地の活用～
- ・近代史跡の案内サインや歴史解説板の設置
- ・川沿い散策路や旧帷子川沿道、水道道、商店街川沿いの公園などの散策路ネットワークの形成
- ・天王町駅等まち歩きの起点などでの案内情報 等



富士瓦斯紡績（現・大型商業施設）



歴史解説版

③古道沿道の山裾に多く立地する社寺等を活かした地域内外の交流

- ～地域の精神的拠り所であり、催事等の中心的役割を担ってきた社寺等の活用～
- ・社寺
- ・文化としての精進料理等の提供、教室開催等
- ・坐禅や写経など仏教体験、教室等
- ・社寺の年中行事、その他行事等との連携 等



神明社



座禅（神奈川区考道山）

④観光まち歩きと商店街・店舗等との連携交流

- ～観光目的を複数化する周辺資源や商店街、広場・公園とのネットワークと仕掛けづくり～
- ・回遊性を高めるための商店街や周辺資源へのルート整備や案内情報の提供
- ・地域の農産物や精進料理等の活用
- ・早朝や夜間、季節等を活かした多様なまち歩きと商店街連携
- ・増加する外国人観光客等の利用しやすい案内情報提供 等



洪福寺松原商店街



まちかど博物館スタンプラリー

⑤学校と連携した担い手を育成する地域との交流

- ～保土ヶ谷宿周辺エリアのアイデンティティを継承し、次代を担う人材の育成～
- ・中世～現代までの多様な資源の活用
- ・小学校の総合学習との連携
- ・中学生・高校生等の参加しやすい催事や活動の実施
- ・大学等専門的知識を研鑽する学生との共同検討
- ・地域活動団体の活動との連携 等



まちゼミ（小学生の地域学習）



ほどわごん（横浜国立大学学生のプロジェクト）

⑥地域で行なわれる催事・イベントを活かした地域内外の交流

- ～保土ヶ谷のPRと人々の交流を活性化する多様な人が参加できる活動・イベント等の育成～
- ・宿場まつりでの交流イベント、地域PR
- ・ごうどいちや朝市での地域の農産物・加工品・弁当・グルメ等の販売、地域PR
- ・箱根駅伝応援イベントでの地域案内・情報発信・交流
- ・オープンヘリテージ等のまち歩きや多世代交流イベントの定期開催
- ・他の宿場町との連携など地域内外で連携した取組み
- ・商店街、地域活動拠点、地域活動団体との連携 等
- ・防災イベント・外国人対応 等



朝市街道



ごうどいち

歴史を活かしたテーマ別交流の促進に向けて

- (1) 情報発信の充実（説明スポット・電子高札場・ビジュアル紹介等の充実、保土ヶ谷ゆかりの人の紹介等各テーマへの深み・奥行き付け）
- (2) 縁側交流の充実（みちにしみ出す交流の活性化：朝市街道、お茶処・カフェ、仮称スペースしばた等交流施設、ほどわごん等の活性化や新たな場・活動づくり）
- (3) トイレ・休憩場所の充実（ポケットパーク・お休み処や店舗のトイレ利用連携等の充実）
- (4) 案内人の育成（後継者、新たなテーマの案内等）
- (5) レンタルサイクル・サイクルスペースの活用（電動アシスト付自転車の活用や自転車を対象としたテーマづくり）

3) 地域活動連携

(1) 地域活動連携を促す支援と空間形成

目的

旧東海道保土ヶ谷宿の歴史のほか、中世～現代に積み重ねられてきた道筋とまちの形成の歴史を活かし、まちづくり・みちづくりに関心を持っていなかった人や、興味はあるが活動に参加していない人、参加方法が分からない人たちが地域活動に関わる機会を増やすことで、保土ヶ谷宿エリアに対する意識、愛着を高めていく。



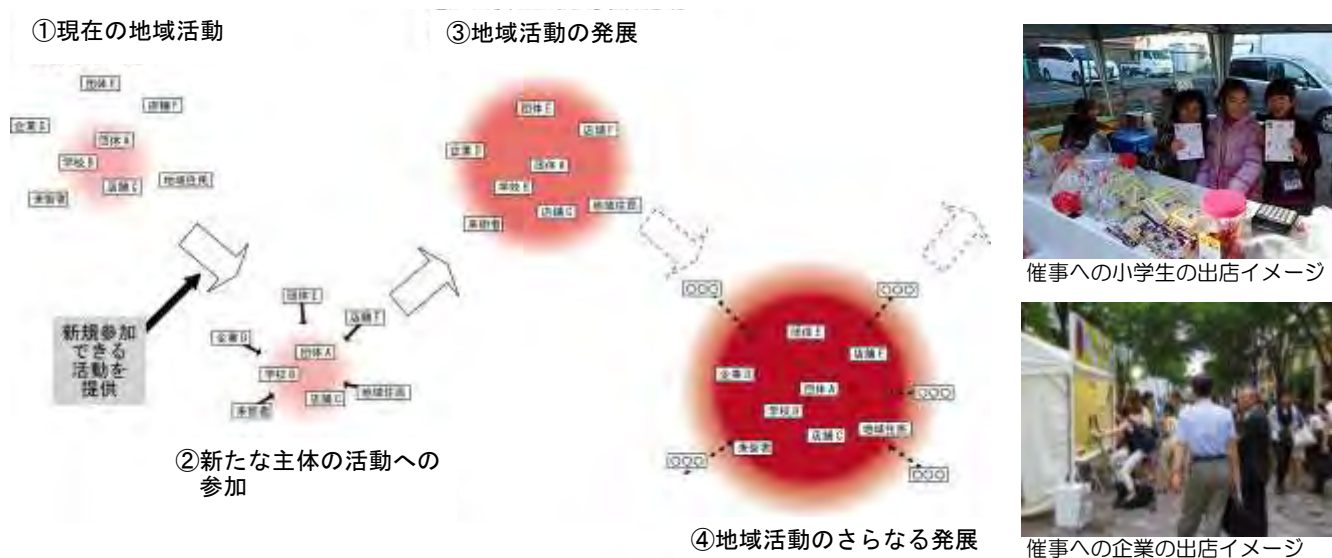
地域とのつながりを発展させる3つの視点

- ① 地域活動を活かした店舗・企業・学校等との連携強化による新たな主体の参加促進
- ② 団体の活動事業の連携強化による団体間のつながりの創出・強化
- ③ 活動しやすい空間（道・沿道）づくりによる連携強化

①新たな主体（店舗・企業・学校等）の参加促進

これまで、まちづくり・みちづくり活動に参加していない店舗・企業・学校等が参加できるよう、現在行われている各種事業やイベントなどの地域活動に、業種・形態や、学校区分・活動内容に応じた参加の方法や場の設置を検討し、活動の発展と参加者の広がりを作る。

活動の発展イメージ



活動の例

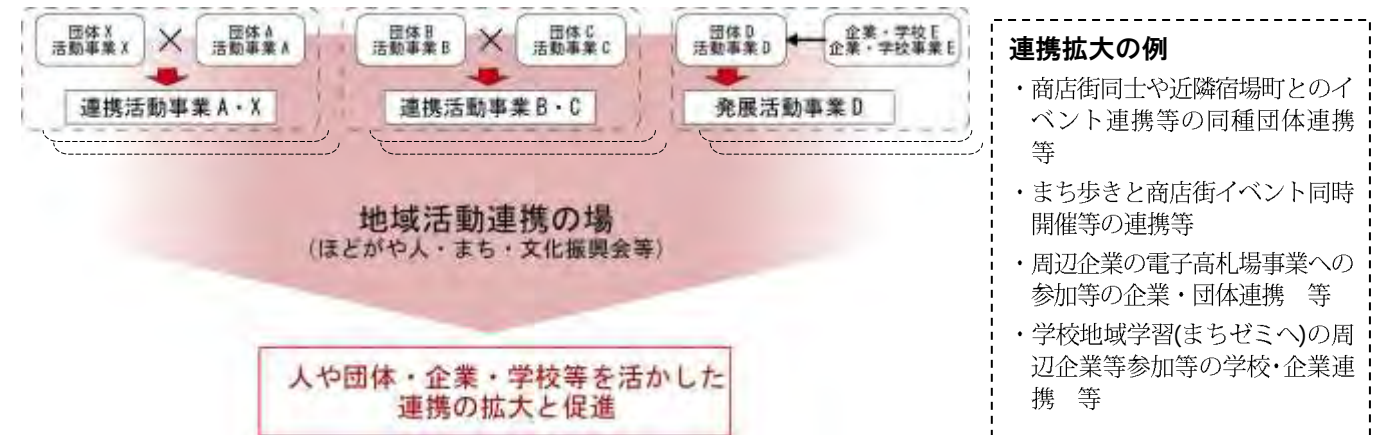
- (既存の活動に、これまで参加していなかった主体が参加できる機会を創出)
- ・ごうどいちや朝市街道等に商店街飲食店等がその場で調理できる場や料理教室・朝食会場の設置 等
 - ・宿場まつりへ等の周辺企業用PRブース設置による企業イノベーションやCSRの場づくり 等
 - ・大学企画によるほだわごんの出店など 等
 - ・周辺企業の既存まちかど博物館への出品展示協力 等

②団体間のつながりの創出・強化

地域内同士や地域内外も含め、各種活動団体や商店街などの活動事業同士に関わりを生み出し、連携事業としての拡大や、新しい事業としての発展や団体間のつながりの創出・強化を図る。

現在、各種団体連携の窓口となっている「ほ도가や 人・まち・文化振興会」などの主体が中心となり、各種地域活動団体や商店街の連携の拡大を進める。

活動の発展イメージ

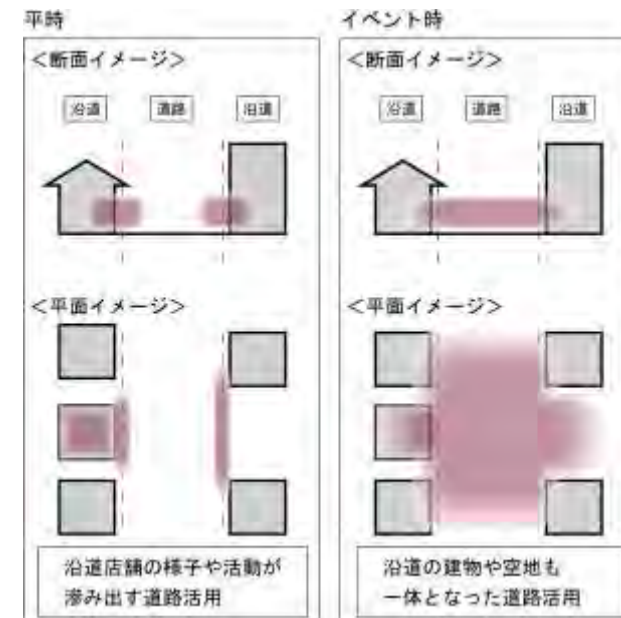


③活動しやすい空間（道・沿道）づくりによる連携強化

道路幅員や歩道の有無や断面構成などが多様であるため、商店街等の店舗立地状況や各種イベントの利用実態を考慮した整備・誘導のあり方を検討し、道路や沿道敷地において、各種イベントや商店街活動、店舗利用の場として使いやすく連携しやすい空間づくりを行っていくことで、みちを使った各種活動や沿道店舗等の活動の連携強化を図る。

平時（日常的）には沿道店舗等の利用や活動が沿道に滲み出すことで道路と沿道空間の一体性を高める空間づくりを行う。道路利用については、近年の各種法規制の緩和や社会実験的な取り組み等も含めた検討を行う。イベント等開催時には道路空間だけでなく、沿道敷地もイベント等に関係性を持つよう道沿いの溜り空間や縁側空間の配置や道路と敷地の連続性などに配慮した空間づくりをおこなっていく。

空間の使い方イメージ



空間づくりの例

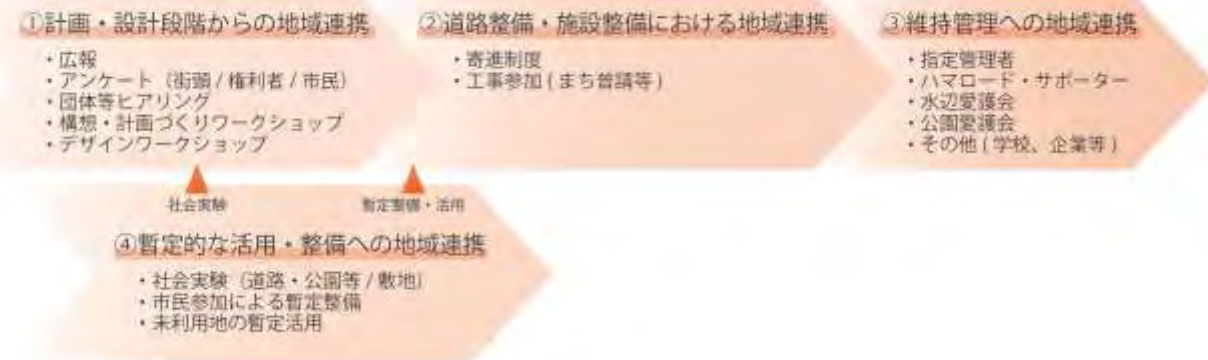
- <平時に活かせる空間づくり>
- ・店舗内や敷地側の活用がうかがえる沿道に開かれた店舗や施設づくりの誘導（開口部の確保や設えなど沿道と敷地との関係性への配慮等）
 - ・沿道に会議室等利用可能な施設の充実
 - ・道路境界段差の解消や道路空間と一体的な敷き際づくり
- <イベント時に活かせる空間づくり>
- ・道路附属物の集約や可動式の検討
 - ・道路断面構成の検討
 - ・駐車場や店先、施設オープンスペース等でのイベント利用可能スペースの確保誘導



沿道に開けた店舗のイメージ 沿道敷地活用のイメージ

(2) 計画・整備・管理プロセスにおける地域との連携

まちづくり・まちづくりにおける各施設整備のそれぞれの段階において、①～④に示すような地域連携の仕組みを検討し、より効果的な方法を用いながら整備・活用・管理を図る。



連携の目的

- ・親しみや愛着を持って使われる道路、施設とすること
- ・維持管理・運営まで想定した使いやすい道路、施設とすること
- ・地域内外のつながりづくりに資する道路、施設とすること

①計画・設計段階からの地域連携 ～利用者や運営者の視点の反映～

市民意見を取り入れる機会づくりや、地元活動団体間の連携のきっかけづくり等のために、市民ワークショップの開催やヒアリングの実施、広報誌等の利用を検討する。

<地域参加の具体例>

| 手法例 | 活用のポイント | | |
|-----------------|---------------------------|--|------------------------|
| | 意向把握・反映 | 周知 | 愛着づくり |
| 広報 | — | ・整備に関する周知 ・検討状況のお知らせ ・ワークショップ等の参加募集や結果等のお知らせ | — |
| アンケート | 街頭 | ・利用実態に基づく来街者意向の把握と反映 | ・整備に関する認知 |
| | 権利者 | ・整備に直接関係する沿道等権利者の意向把握と反映 | ・整備に関する認知 |
| | 市民 | ・広域目線での潜在的な市民意向の掘り起こし | ・整備に関する認知 |
| 団体等ヒアリング | ・各団体の利用実態に基づいた課題や意向の把握と反映 | — | ・各団体での利活用や関わり方等の可能性の検討 |
| 構想・計画づくりワークショップ | ・地域の課題や住民等の意向を把握し計画等に反映 | ・市民や地域団体の相互認識の場 | ・初期段階からの施設づくりへの関わり |
| デザインワークショップ | ・施設利用や運営のあり方を想定し、設計に反映 | ・施設に関する理解の深まり | ・具体の施設整備内容検討への関わり |



通信を配布し、周知を図っている例 (保土ヶ谷区)



ワークショップによってニーズの把握を行った例 (保土ヶ谷区)



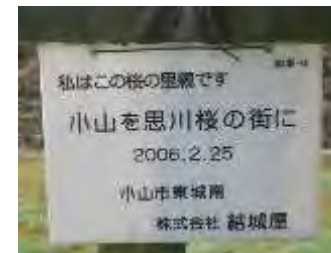
道路の設計を市民参加の場で行った例 (埼玉県戸田市)

②道路整備・施設整備における地域連携 ～まちとみちへの愛着を高める～

市民に親しみや愛着を持たれ、継続的に地域で育まれていく道路・施設とするために、地域の機運を高め、具体的な道路整備や、施設整備工事自体にも市民が関わることが可能な仕組みの検討を行う。

<地域参加の具体例>

| 手法例 | 活用のポイント | 対象イメージ例 |
|--------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 寄進制度 | ・整備への貢献が目に見える形で残ることによる愛着づくり | ・町割石によるボーダー舗装 ・街路樹、ベンチ 等 |
| 工事参加 (まち普請等) | ・整備へ主体的に関わることで愛着づくり | ・舗装、植樹、外構、壁面の仕上げ等 |



里親制度として市民が整備費を負担して街路樹を設置している例 (栃木県小山市)



ヨコハマ市民まち普請事業を活用して市民自らが整備した例 (保土ヶ谷区)

③維持管理への地域連携 ～まちとみちへの関わりの定着～

道路・施設を地域に根付かせるため、市民による維持管理への継続的な参加の仕組みを検討・導入する。

<地域参加の具体例>

| 手法例 | 活用のポイント | 対象イメージ例 |
|--------------|---|--|
| 指定管理者 | ・利用者サービスを効果・効率的に実施 ・市民が主体性を持って維持管理を行う機会づくり | ・公共施設等 |
| ハマロード・サポーター | ・市民が主体性を持って維持管理を行う機会づくり | ・道路等 |
| 水辺愛護会 | | ・河川等 |
| 公園愛護会 | | ・公園等 |
| その他 (学校、企業等) | ・維持管理にとどまらない、地域活動への新たな参加者の獲得 | ・次代を担う世代の育成 ・地域に密着した企業市民活動との連携 ・専門的な知見を維持管理へ活用可能な施設等 |



ハマロード・サポーターが道路の美化清掃を行っている例 (戸塚区)



松並木プロムナード水辺愛護会の清掃活動 (保土ヶ谷区) (松並木プロムナード水辺愛護会HPより)



植栽に関する知見を活かし、市民が並木の維持管理に参加している例 (保土ヶ谷区)

2. まち・みちの再生計画 3) 地域活動連携

④暫定的な活用・整備への地域連携 ～より良い整備に向けた実験や暫定活用～

計画・設計へのフィードバック、施設整備までの間の市民意識の育成、市民へのPRを行うため、社会実験やイベント等の暫定的な活用・整備を検討する。

<地域参加の具体例>

| 手法例 | 活用のポイント | 対象イメージ例 |
|----------------|---|---|
| 社会実験 道路・公園等 | ・整備のあり方や可能性、課題や懸念事項について検証し、計画・設計へフィードバック | ・交通（車線幅員減少、交通規制等） ・道路・駅広滞留空間利用（カフェ利用、案内サイン設置など） ・公園（各種市・カフェ・情報発信等）等 |
| 敷地 | ・利用実態に即した市民ニーズの把握・掘り起こし ・整備後の運営状況を、実験結果から想定し、計画・設計へフィードバック | ・学校跡地等（将来利用想定シミュレーション） ・街並み形成（バナー・暖簾・灯笼等） ・トイレ利用（店舗等）等 |
| 市民参加による暫定整備 | ・整備に対する周知、関心の増加 ・着手まで長期間にわたる整備のPR | ・道路（ペイントによる町割石イメージの仮想整備）等 |
| 未利用地の暫定活用 | ・整備に対する周知、関心の増加 ・用地の利活用へ向けた機運の高まり | ・沿道未利用地（ポケットパーク化等） ・道路拡幅用地買収済み地（花壇・ポケットパーク・イベント利用）等 |



車道幅員を狭める社会実験（長野市 HP）



商店街の自動車規制の社会実験（静岡市）



学校跡地活用の社会実験イメージ（保土ヶ谷区）



駅前広場での情報センター設置実験（千葉県 HP より）



学校と連携しみにちにペインティングを実施している例（港北区）

【参考：基本構想・再生計画策定に当たり、実施した市民ワークショップ】

①「旧東海道保土ヶ谷宿 まち語り・みち語りワークショップ」（平成 26 年 9 月 22 日）

本計画を策定するに当たり、市民の意向を把握するため、「旧東海道の好きな場所・愛着のある場所・思い出の場所」、「旧東海道がどのような道になって欲しいか」についての意見交換を行った。



グループワーク



昔のまちなみ写真紹介



横浜国立大学の学生からのほどワゴンの紹介

②まち・みちづくりワークショップ（平成 27 年 1 月 29 日）

前回ワークショップでの意見を、みちづくりのアイデアへと深めていくため、「保土ヶ谷宿で大切にしたいモノ・コト」、「保土ヶ谷宿の歴史を特徴づけるために必要な資源」、「まちの使いやすさ・交流促進に必要な取組み」についての意見交換を行い、6 テーマのまち歩きルートを作成した。



オリエンテーション



意見発表



意見のまとめ

③まち歩きルートの点検ワークショップ（平成 27 年 8 月 1 日）

前回ワークショップでアイデアが出されたまち歩きルートの点検を行い、中世・江戸時代から現代に至る地域資源と、旧東海道のつながりや各ルートの特徴・課題について意見交換を行った。



まち歩き点検



意見発表



意見のまとめ

④交流拠点づくりワークショップ（平成 27 年 11 月 30 日）

保土ヶ谷宿エリアに望まれる交流機能のアイデア出しやまちの中での機能配置の確認、具体的な交流拠点のイメージについての意見交換を行った。



グループワーク



意見発表



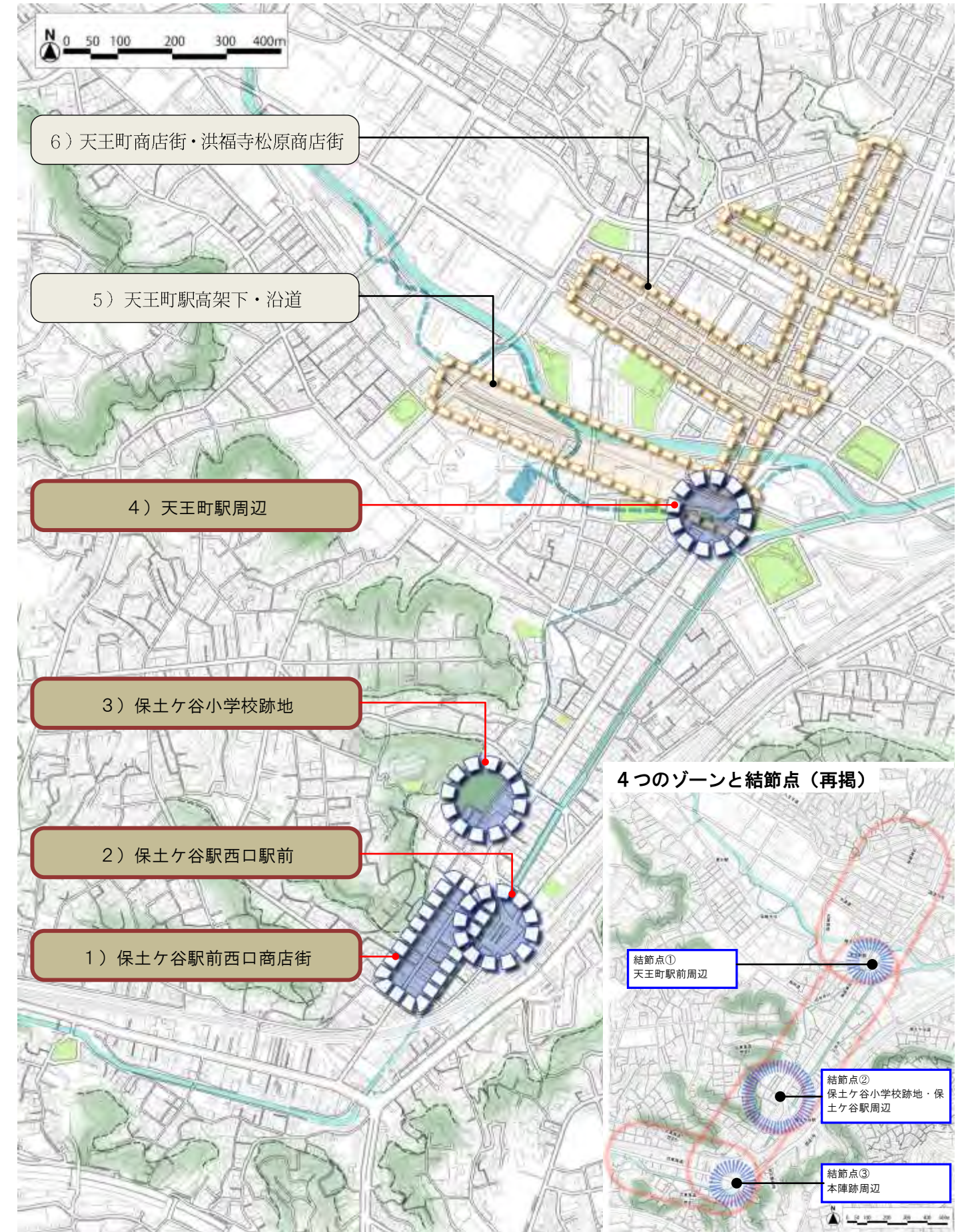
意見のまとめ

3. 重点地区の再生計画

重点地区の位置づけ

まちづくり・みちづくりをより効果的に実施・展開していくため、整備の緊急性や波及効果のほか、まちづくりや、みちづくりに係る具体的な事業の実施状況等を勘案し、次の位置づけとする。

| 地区名 | 地区の性格 | 地区の特徴 | 本計画での検討概要 | 位置づけ |
|--------------------|--|--|---|---|
| 1) 保土ヶ谷駅前西口商店街 | <ul style="list-style-type: none"> 17世紀中頃、保土ヶ谷宿の4集落が集約された際に新たに整備された道で、高札場、問屋場等が集積していた。 | <ul style="list-style-type: none"> 交通安全上の課題解決が喫緊に求められている。 地域活動の実績を踏まえ、今後より一層の地域活動連携や交流拠点としての発展が期待される。 | <ul style="list-style-type: none"> 現況概要、空間的課題及び機能導入にあたっての課題、整備方針、整備・デザインの考え方、平面イメージ、実現にむけた課題を整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> みちづくりにより、まちづくり等の課題への対応の緊急性が高い地区や整備により周辺への影響や波及効果が高い地区。 特に詳細に検討する地区とする。 |
| 2) 保土ヶ谷駅西口駅前 | <ul style="list-style-type: none"> 駅前広場は昭和50年代に拡張整備された。 3・3・10環状1号線の一部として都市計画決定されている。 | <ul style="list-style-type: none"> まちあるきの起終点・中継点であり、まちの顔としての空間づくりが求められている。 滞留スペース確保の必要性が高く、情報発信や交流、地域活動連携機能の導入が望まれる。 | | |
| 3) 保土ヶ谷小学校跡地 | <ul style="list-style-type: none"> 明治6(1873)年に程谷学舎として設立し、現香象院の寺子屋を分校とした歴史がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 保土ヶ谷駅周辺地区プランなどの上位計画等に位置付けられ、保土ヶ谷宿周辺エリアの中心地として各種拠点としての整備が求められている。 | | |
| 4) 天王町駅周辺 | <ul style="list-style-type: none"> 帷子橋が架けられていた歴史的背景を有し、保土ヶ谷宿のイメージを想起させる重要な場所 交通の要衝としての役割(江戸期の舟運、現代の鉄道駅)を担う場所 | <ul style="list-style-type: none"> まちあるきの起終点・中継点であり、まちの顔としての空間づくりが求められている。 滞留スペース確保の必要性が高く、情報発信や交流、地域活動連携機能の導入が望まれる。 | | |
| 5) 天王町駅高架下・沿道 | <ul style="list-style-type: none"> 相鉄線の連立化事業が進行中であり、平成27年時点は軌道工事中となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> 相模鉄道本線の高架化に伴い周辺(沿道)施設とみちの調和した空間づくりが望まれる。 | | |
| 6) 天王町商店街・洪福寺松原商店街 | <ul style="list-style-type: none"> 市内外から買物客の集まる活気あふれる商店街となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> イメージの維持向上と歴史活用や商店街等の相互連携が求められている。 | | |



3. 重点地区の再生計画 1) 保土ヶ谷駅西口商店街

1) 保土ヶ谷駅西口商店街



コンセプト

旧東海道の道筋を活かした、駅・今井川・地域活動拠点をつなぐ周遊ネットワークの形成

無電柱化、歩行空間の拡幅により、ゆとりを確保

イメージハンブの設置

高札場跡地を示すサイン位置を再検討

イベント時等のかたびらスペースシバタの機能活用

今井川沿いへの通り抜けの確保を検討

税務署の建て替え等に合わせた、イベントスペース確保を検討

イメージハンブの設置

北川製粉駐車場

高札場跡地

かたびらスペースシバタ

第2常盤湯

税務署駐車場

金沢鎌倉道石標

駅前広場と連続した舗装

第2常盤湯へのアクセスを示す案内設置を検討

憩いのスペースとしての活用を検討

今井川西側の歩行者空間の整備

道路付属物や占有物の整理・再配置

空間・デザインの考え方

- 継承されてきた道幅を活かした安全な交通空間づくり
- 西口商店街と駅・今井川沿いの空間をつなぐ周遊動線づくり
- サイン環境の検討

機能導入の考え方

- イベントスペースの維持・拡充
- 憩いの環境づくり
- 商店街利用者の利便性向上

実現に向けて

- 無電柱化に向けた地元調整・公民協力
- 地域活動団体による協力体制づくり
- 河川工事等との調整



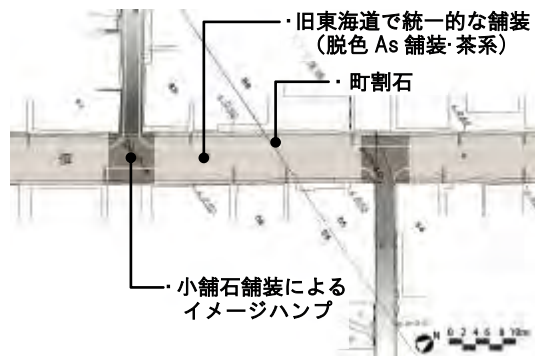
高札場跡地サインの設置環境



金沢鎌倉道石標の設置環境

“まちづくり” “みちづくり” の方針（まち・みち再生基本構想より抜粋）

- ・宿時代から継承される道路幅員を生かした道路景観とする。
- ・歩行者の安全性を確保する。
- ・歩車共存の道路空間として断面構成とデザインを検討する。
- ・交通のあり方を検討する。
- ・街道風情を感じる設えとする。
- ・イベント等に活用しやすい設えと仕組みを検討する。



日常時のイメージ



イベント時のイメージ

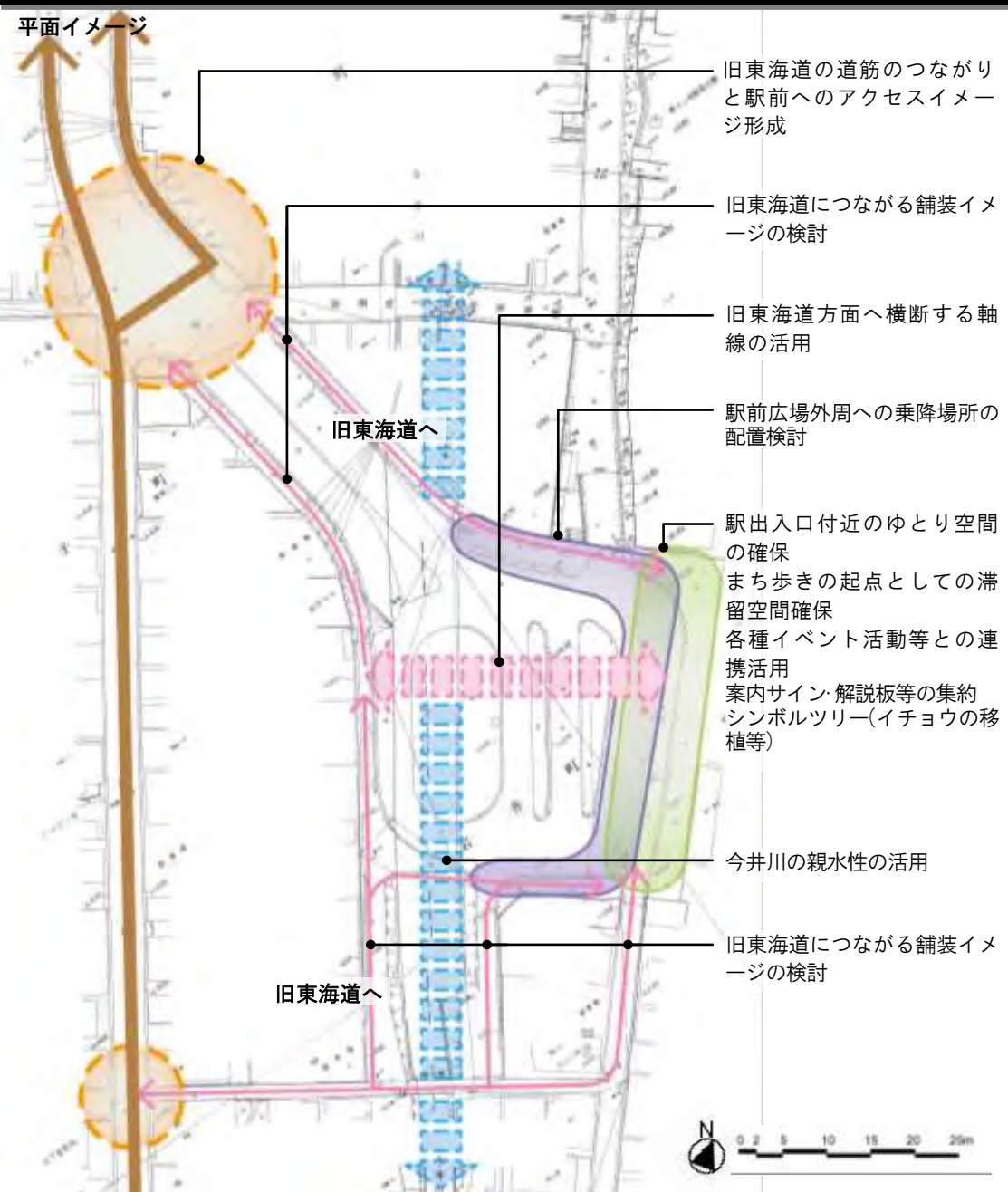


3. 重点地区の再生計画 2) 保土ヶ谷駅西口駅前周辺

2) 保土ヶ谷駅西口駅前周辺



コンセプト 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔に相応しい駅前空間と旧東海道・今井川を活かした分かりやすいまちの構成づくり



空間・デザインの考え方

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔・まち歩きの起点に相応しい駅前空間形成
- 舗装等を活かした駅前広場から旧東海道のつながりの強化
- 安全で利用しやすい交通施設の再配置

機能導入の考え方

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの情報発信・案内機能の強化
- 滞留空間を活用した地域活動の活発化

実現に向けて

- 保土ヶ谷宿周辺エリアの顔としての駅前広場検討
- 駐輪場等の再配置や民間運営等の検討
- 広場内の植栽や水辺などの地域による維持管理

“まちづくり” “みちづくり” の方針 (まち・みち再生基本構想より抜粋)

- ・まち歩きの起点として滞留空間と情報発信機能を持たせる。
 - ・旧東海道への道筋や今井川の川筋との関係性を高める駅前広場空間づくり。
 - ・保土ヶ谷駅西口商店街や今井川等を含めた回遊エリアの形成
 - ・駐輪場の規模や配置、整備方法を検討する。
 - ・バス・タクシー等の必要バースを再整理しレイアウト検討を行う。
- まち・みち再生基本構想より抜粋**
- ・旧東海道とのつながりを感じる駅前広場のデザイン
 - ・バス・タクシー等の必要バース数の再整理とレイアウト検討
 - ・駐輪場(配置・規模・整備方法等)の検討
 - ・滞り空間・情報発信機能の確保
 - ・古くから親しまれているイチヨウの活用
 - ・まちの空間デザインの検討
 - ・旧東海道への動線を強化する舗装の統一

駅舎前から見た駅前広場のイメージ



今井川を活かした親水空間のイメージ



3. 重点地区の再生計画 3) 保土ヶ谷小学校跡地

3) 保土ヶ谷小学校跡地

場所の背景・現況等

- 平成 12 (2000) 年まで保土ヶ谷小学校が立地し、地域コミュニティの拠点であった。
- 保土ヶ谷区プラン (平成 14 年 8 月) に「保土ヶ谷小学校跡地の活用」が位置付けられている。
- 地域内の貴重なまとまったオープンスペース
- 保土ヶ谷小学校が移転してからは、イコットハウスとして使用され、イベント等で地域活動団体や地域住民を始めとする地域内外の幅広い市民の方に利用されている。

“まちづくり” “みちづくり” の方針 (まち・みち再生基本構想より抜粋)

- 地域の人が気軽に立ち寄り自然と地域性が高まる道の駅的な機能導入を検討する。
- 歴史を活かし地域内外で交流を深める機能導入を検討する。
- 催事可能な広場機能の確保を検討する。
- 施設の視認性やアクセス動線の検討を行う。
- 駐輪場・駐車場など保土ヶ谷駅との交通機能の役割分担を検討する。

コンセプト

保土ヶ谷宿周辺エリアの多様な利用者や世代を繋ぎ、交流の輪を広める拠点機能の醸成

空間・デザインの考え方

- 旧東海道からの見え方にも配慮した、歴史と文化を感じさせる落ち着いた風格のある外観
- 多様な来訪者が円滑に利用できる動線計画
- 地形や風景を生かした自然を身近に感じることができる空間づくり

機能導入の考え方

- 地域の歴史や文化を活かし、集い、触れ合える交流促進機能
- 「ここに来れば保土ヶ谷宿がわかる」宿場の歴史や文化を伝える地域情報発信機能
- 地域催事等の開催やまち歩き時に気軽に立ち寄ることができる休憩機能
- 多様な交通の結節点として保土ヶ谷駅前を補完する駐輪・駐車機能

参考：想定される機能一覧

- 敷地面積：6,140 m²、用途地域：第一種住居地域、建ぺい率：60%、容積率：200%
- 建築基準法第 22 条による区域、附置義務等：周辺地区又は自動車ふくそう地区 (駐車場条例)

| 機能 | 実施内容等 | |
|--------|-------------|--|
| 交流促進 | 地域物産 (直売所) | ・朝市やマルシェ、フリーマーケットの実施を想定 |
| | 体験学習 | ・地域の小中学生や小規模教室等で活用 |
| | (内訳) | 料理室 ・食産業関連の体験 工芸室 ・工芸・工業系産業の体験 |
| | 地域学習室 (会議室) | ・地域内のレクリエーション活動や小規模な催事等の開催 |
| 地域情報発信 | 交流広場 | ・用途地域により屋内の不特定多数向けのホールは難しいため、屋外もしくは半屋外で広がりのある空間の確保を想定 |
| | 保土ヶ谷文化発信 | ・保土ヶ谷名物や特産品の展示・販売等 ・地域生活情報や保土ヶ谷宿観光に関する書籍等の書架及び閲覧スペースの確保を想定 |
| | 地域生活情報紹介 | ・地域生活情報、地域活動団体等の紹介 ・催事等の開催案内 |
| | 保土ヶ谷宿観光案内 | ・保土ヶ谷宿全体や各時代の資源紹介 ・まち歩きルートの紹介・解説 |
| 休憩 | 展示ギャラリー | ・地域内の歴史的・文化的資料等の展示 ・エリア内には 100 m ² 以下のギャラリーしか立地していない |
| | お休み処・カフェ | ・地域生活情報紹介スペースや保土ヶ谷宿観光案内スペースとの連携を図る ・エントランス付近への設置を想定 |
| 駐輪・駐車 | WC | — |
| | 自転車等駐車場 | ・自転車駐車場として利用 |
| | 駐車場 | ・利用者用の駐車場 |
| | バス駐車場 | ・観光バスの駐車場 |

※想定される機能の中で、重点的に取り組んでいくものは今後検討する必要がある。



特産品販売
静岡県掛川市/道の駅掛川



宿場の歴史展示・資料閲覧
神奈川県川崎市/かわさき宿交流館



ブックカフェ
東京都豊島区/みらい館大明旧・大明小学校

実現に向けて

- 地域意向・ニーズの把握や実現可能性の高い機能・施設規模の絞り込み
- 自主的・継続的な管理・運営に向けた体制の構築及び担い手の育成
- 民間活力の活用も視野に入れた事業手法の選択

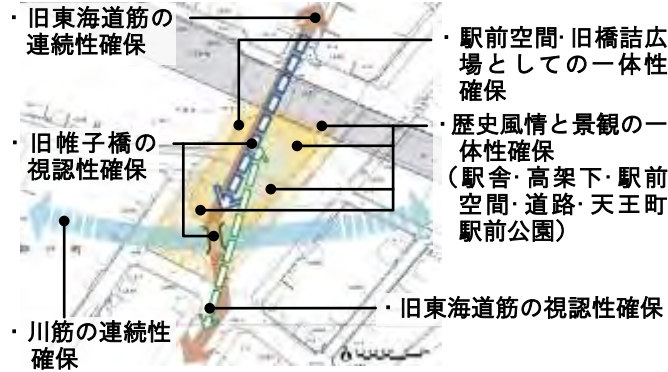


4) 天王町駅周辺



“まちづくり” “みちづくり” の方針 (まち・みち再生基本構想より抜粋)

- ・道筋の連続性を再生する。
- ・屈折部となる道筋を分かりやすくする。
- ・駅や駅前広場、公園、道路等の空間に一体性を持たせる。
- ・駅前広場及びまち歩きの出発点としての滞留空間を確保する。
- ・まち歩きの出発点・中継地としての情報発信機能、休憩機能等を持たせる。
- ・地域の催事や日常活用が可能な広場空間を確保する。



コンセプト

保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口に相応しい駅前空間の象徴性を高める一体的な空間づくり

空間・デザインの考え方

- 高架下から駅前空間、公園までの一体的な空間づくり
- 旧東海道の道筋と旧帷子川の川筋の明確化
- 地域等による活用が風情を生み出す広場創出

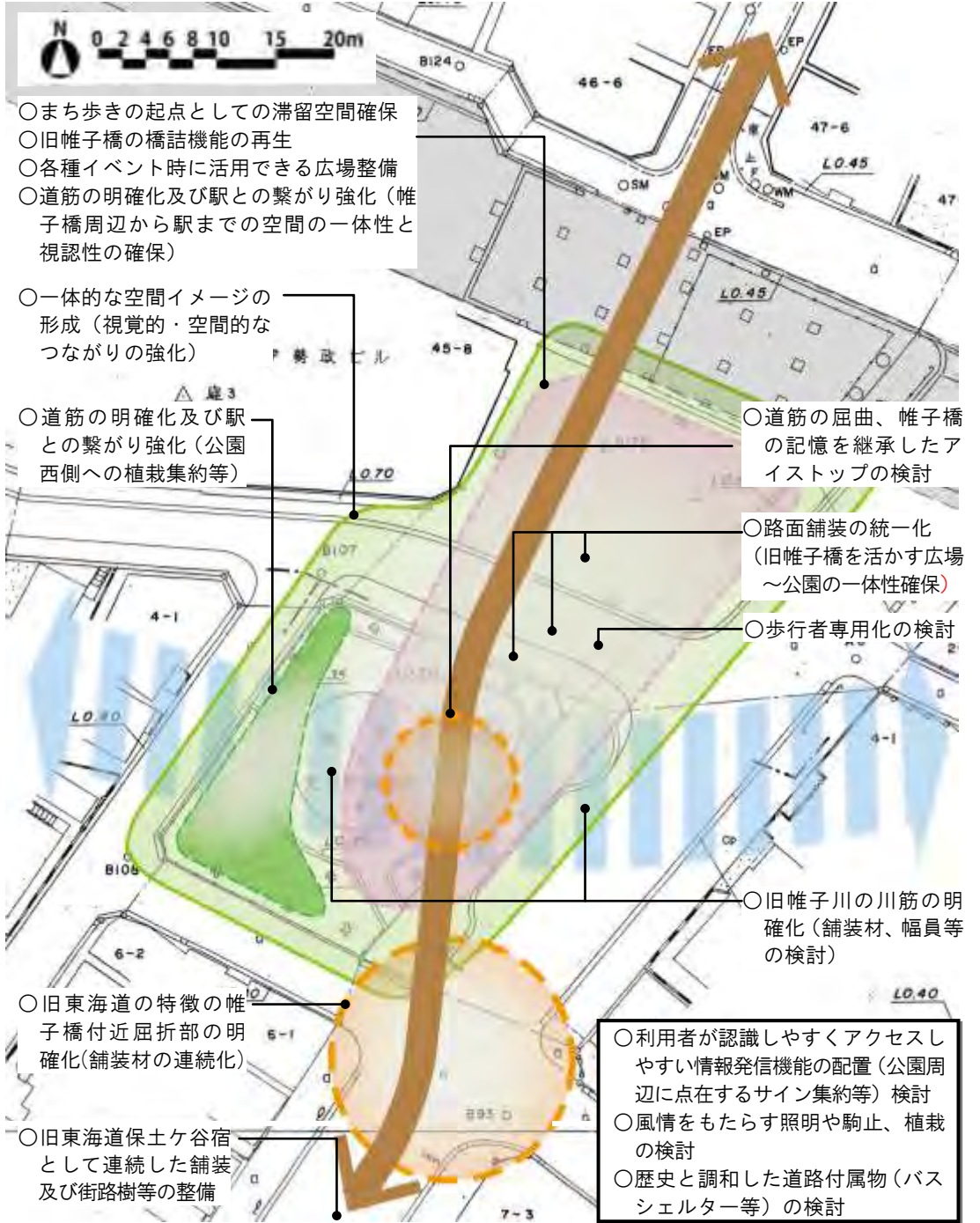
機能導入の考え方

- 官民連携による多様なまち歩きを支援する情報発信拠点
- まちの様々な人が集い憩える居場所づくり

実現に向けて

- 駅前の滞留空間確保に向けた既存自転車駐車場の代替地確保
- 天王町駅前広場と天王町駅前公園及び市道天王町162号線の一体的な舗装整備に向けた検討

平面イメージ



駅舎側から見た駅前空間のイメージ



南側から見た駅前空間のイメージ



5) 天王町駅高架下・沿道



天王町エリアの賑わいをつなげ、広げるネットワーク空間づくり

南北方向の軸となる旧東海道の賑わいや日常の生活動線をつなげ、広げるための東西方向の軸となりうる空間づくりを目指す

重点地区の具体方策

- 高架下空間の有効活用と沿道への賑わいのしみ出し
- 歩行者道線の確保と搬出入路の検討による歩行者が近づきやすい高架下空間の演出

6) 天王町商店街・洪福寺松原商店街



地域の日常生活の拠点となる賑わいの空間づくり

両商店街において今後も日常的な生活拠点や地域の賑わいの拠点として継続的に賑わいの創出を図る

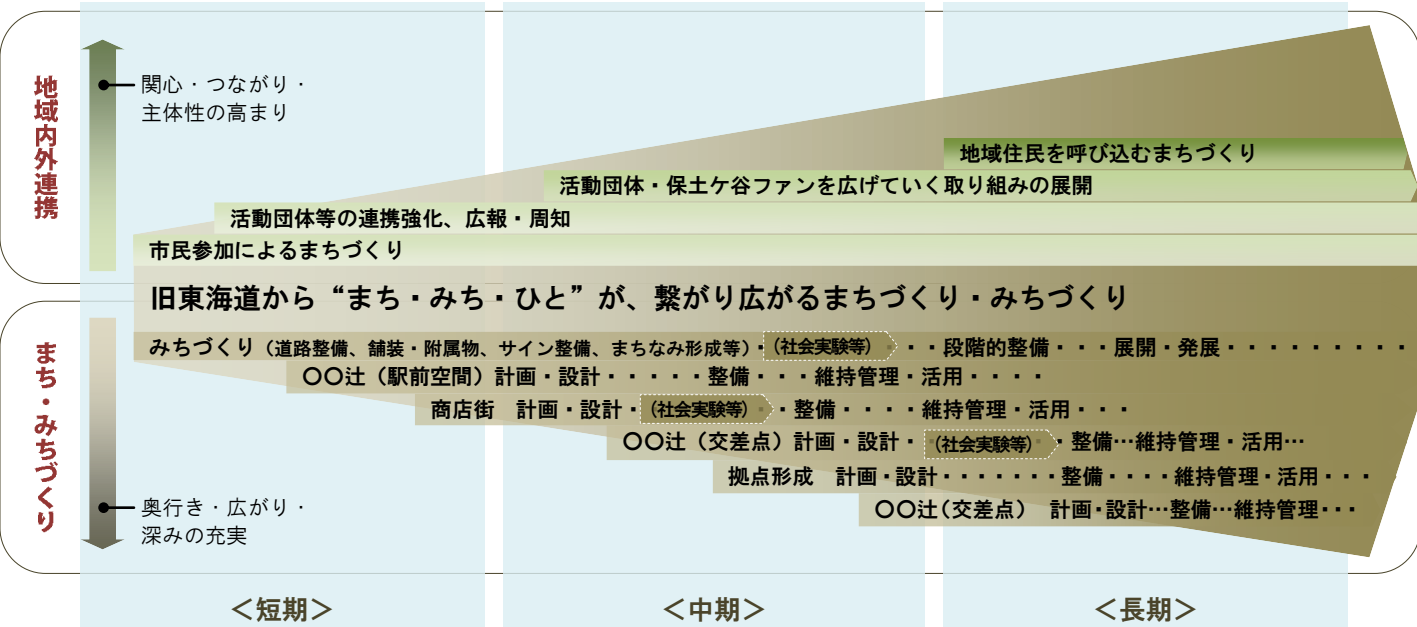
重点地区の具体方策

- 東西方向と南北方向の沿道店舗等における協力・連携体制の強化
- 歩行者にやさしく賑わいのある通りの形成
- 商店街の特徴を際立たせ、より一層の賑わいを生み出す店舗・機能等の導入

旧東海道から“まち・みち・ひと”が繋がりが広がるまちづくり・みちづくりの推進

保土ヶ谷宿エリアは、旧東海道につながりを持ちながら市街地の発展を遂げてきた一方で、まちの構成の変化が積み重ねられていく中で、地域住民や市民の旧東海道保土ヶ谷宿の認識の低下も進んできた。しかし、近年のまちづくり活動の活発化やまち歩き等で訪れる人々の増加等により、旧東海道保土ヶ谷宿は多くの人に地域特性として再認識されはじめており、これらの機運を活かして旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来につなげていく時機となっている。

そのため、本再生計画を活かしながら、道筋や辻の空間づくり、拠点づくりを進めるとともに、それらを活かした多様な取り組みを連鎖させることで保土ヶ谷宿エリアの特性をより深め、まち・みち・人の結びつきを強め、相乗効果・波及効果を生むまちづくり、みちづくりを進めていく。



1) 個別事業や補修整備等の連鎖による道筋再生の実現

保土ヶ谷宿エリアの旧東海道は約2kmに渡り、道路の断面や役割も異なることから、全体を同時に整備することが困難である。そのため、国道1号保土ヶ谷橋工区や相鉄線連続立体交差化事業に関連した整備のほか、道路の舗装の更新や修繕時期に合わせた整備により、旧東海道の道筋の連続性を高めていく。また、旧東海道以外の歴史的な道筋についても同様に進めていく。なお、整備にあたっては、基本構想・再生計画に示した趣旨を十分に汲みつつ、各道路の断面や沿道土地利用、各種道路施設等との調整を行い、デザインの納まりを十分に検討して行うものとする。

特に重点地区や辻部分については、まちの構成の明瞭化に重要な場所であるため、先行的な整備を検討する。

道筋再生に向けて

- 通り全体での共通デザイン要素(特に舗装材)の詳細検討
- 町割り石整備に向けた往還町並絵図の解説

辻空間整備に向けて

- 車道舗装の補修等の時期に合わせた舗装整備
- 整備対象とする辻の史実等を踏まえた詳細検討
- 回遊性向上に寄与するサイン等設置の具体化検討

重点地区整備に向けて

- 史実の確認等を踏まえた空間・機能のあり方検討
- 戦略的に優先度を設けて順次詳細検討
- 庁内・関係者等との方向性等の共有・詳細検討



2) 地域や民間事業者と協働したより魅力的で発展的な拠点の実現

保土ヶ谷宿エリアの拠点づくりでは、歴史的資源を活かすだけでなく、地域活動がベースとなり、日常的に地域住民が利用する施設とすることで、人と歴史や地域をつないでいくことが重要である。また、施設運営に地域活動団体や民間事業者が主体的に関わることで、より魅力的で持続的、発展的な施設づくりを進めていく必要がある。

そのため、導入すべき機能について、さらに検討を具体化、深度化させるとともに、商店街や店舗、その他民間事業と連携した施設整備や施設運営の可能性を検討していく。

公民協力・連携による実現に向けて

- より良い公共空間づくりやそれらを利用した地域活動の活性化に向けた検討
- 地域活動団体や事業者等とソフト・ハード等のあり方を含めた導入機能の具体化や役割分担等の検討

民間活力の活用による実現に向けて

- 公共的施設にとどまらず、地域の人々が交流し、来街者が立ち寄るために望まれる機能として、店舗的機能や民間でも整備・運営が可能な機能について、民間ベースの事業採算性やニーズ把握等による実現性の検討

権利者や地域活動団体等との連携による実現に向けて

- 歴史的建造物や遺構等の所有者・権利者との調整を十分に図りながら導入機能の検討

3) 関係者との十分な調整と継続的な取組みの実施

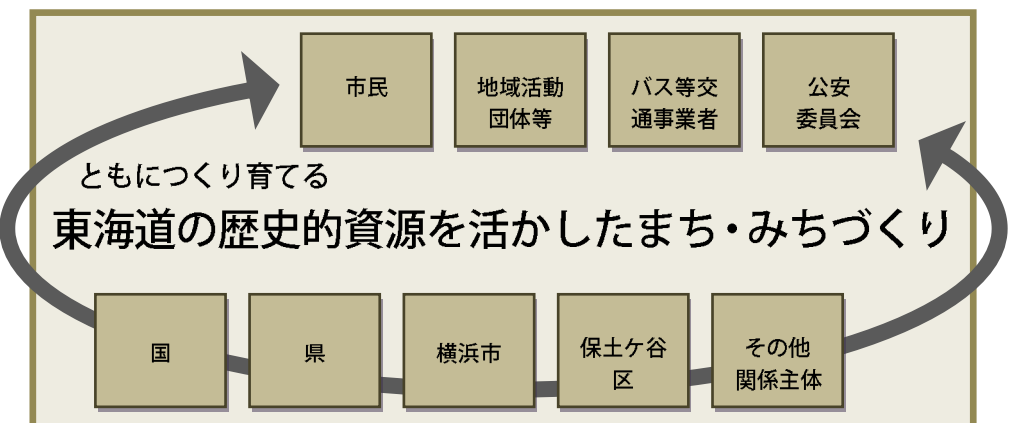
保土ヶ谷宿周辺は、宿が形成されてから約400年の歴史を持ち、その後も震災復興によるみちづくりなど時代に必要な都市形成が進められ、本陣や旅籠、橋梁等の建築・土木遺構なども現代まで残されている。

また、保土ヶ谷橋工区周辺では、保土ヶ谷宿の歴史・文化資源をテーマとした市民主体のまちづくり活動も活発で、松並木プロムナードの整備や美化・清掃、まち歩きガイドのほか、各種イベント等が実施されるなど郷土愛の強い地域であり、今後も市民の主体的な活動が期待される場所である。

本再生計画の役割は、みちづくりや拠点づくりを進めるうえで、宿場時代から現代に至るまで積み重ねられてきた歴史を継承した道路整備や拠点整備、歴史的資源の保全・活用、市民参加によるみちづくりと維持管理等についての基本的事項を示すことにあり、今後も行政と市民が協働し、また様々な主体との連携によってみちづくりを進めていくものである。

そのため、本計画に基づき、道路・施設づくりの具体化や地域資源の安全・活用方策検討、市民活動の支援等を継続的に行っていく。

今後の再生計画の実施にあたっては、関係機関(国、県、交通管理者、地下埋設物企業者、交通事業者、市関係各課等)との十分な調整を行い、継続的に取組を進めていく必要がある。



再生計画の実現に向けた連携のイメージ

1) 保土ヶ谷宿のまちづくりとみちづくりのコンセプトと視点

■まちづくりとみちづくりのコンセプト

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

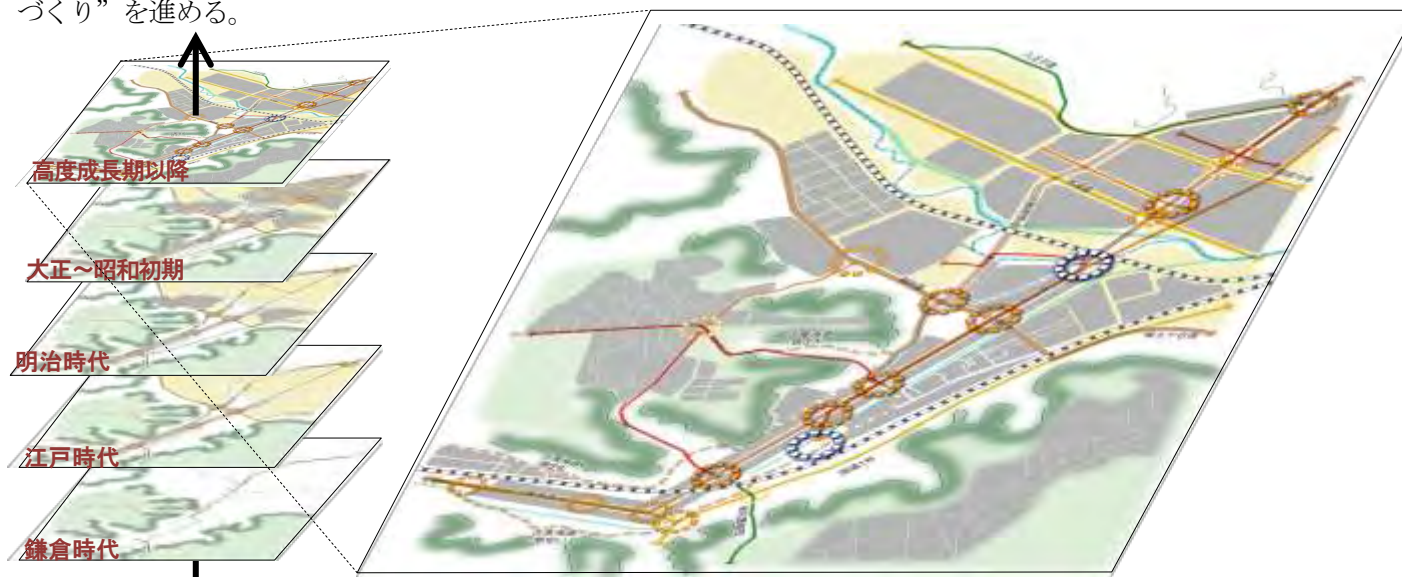
旧東海道保土ヶ谷宿周辺は、金沢鎌倉道や相州道・八王子街道、保土ヶ谷道等、宿場成立以前から交通の要衝としての歴史を有している。また、保土ヶ谷宿は、古東海道において1601年に当時の保土ヶ谷町（現在の元町橋付近）と神戸町（現在の天王町駅付近）の二町による宿として成立し、1600年代半ばには「旧東海道（現在のL字型）の整備」や「今井川の流路整備」、「岩間町、帷子町の宿への編入」などが行われた。これにより、保土ヶ谷宿はL字型という東海道五十三次の宿場町においても稀有な宿場のかたちを有することとなった。

明治・大正・昭和初期には、鉄道の整備や水運や利水等の条件を活かした多くの大規模な工場の立地とこれに伴う市街化の進展や商業の発展が進み、戦後高度成長期以降は、丘の上の住宅地の高密化と工場跡地の土地利用転換が進むとともに、市電の盛衰、鉄道駅周辺を中心とした生活圏の発展とまちとみちのつながりが形成されてきた。

特に保土ヶ谷宿は、横浜市内の東海道3宿（神奈川宿・保土ヶ谷宿・戸塚宿）の中でも、軽部本陣跡や旅籠本金子屋跡などの貴重な歴史的資源が存続しており、多くの観光やまち歩きなどの利用者が訪れる場所となっている。

また、保土ヶ谷宿地域周辺では、「松並木プロムナードの再生や管理」、「まちについての学習」、「まち歩きのガイド」など、地域の歴史を活かした住民主体の多様なまちづくり活動が行われている。また、旧東海道は、明治以降に発展した市街地と駅や商店街などのまちの中心部をつなぐ軸となっており、保土ヶ谷宿時代からの歴史は現代においても周辺住民の心のふるさと（アイデンティティの拠り所）として切り離せないものとなっている。

このような背景のもと、江戸保土ヶ谷宿をはじめとしてまちの中心となってきた旧東海道を軸としながら、各時代において積み重ねられてきた歴史を活かし、地域住民や来街者等により生まれ、継承されていく“まちづくり”“みちづくり”を進める。



□まちづくりとみちづくりの視点

視点1：“まち”と“みち”の変遷を地域の魅力として継承する

各時代における“道筋・川筋の整備”と“まちの形成・発展経緯”を活かしたみちづくりや施設・機能配置によって、使いやすい道路整備や保土ヶ谷宿地域の回遊性向上、道路景観に調和した街並み形成に向けた機運の醸成等、相乗効果を高め次世代に継承する“まちづくり”、“みちづくり”を進める。

現在まで残された歴史的資源の保存・復元・修景・再利活用を図る。また、歴史の中で失われた資源についても歴史資料等の文献による再現やデザインへの反映、歴史的遺構の発掘調査による歴史的資源の掘り起こしに努め、失われた歴史を継承する。



旧東海道



今井川



まちかど博物館



風情を感じる建物

視点2：地域内外の交流を活性化させる

保土ヶ谷宿地域が伝え育んでいる歴史や活動等の魅力を地域内外に発信し、地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々、地域活動団体等の利用特性を反映しながら、各主体が相互に交流できるような情報発信と交流の活性化を進めていく。



旧街道の風情を留める旅籠跡



松並木プロムナード



まち歩きガイドの様子



宿場祭りの様子

視点3：まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める

保土ヶ谷宿地域への愛着を持ち、より深め、地域の誇りとして高めていくため、地域住民や地域活動団体、まち歩き等に訪れる人々などが主体的に関わっていく“まちづくり”“みちづくり”を進めていく。



ヨコハマ市民まち普請事業による植樹活動（瀬谷区）



道路の美化・清掃活動等を行っている例（戸塚区）



地域学習の様子



まちかど博物館での交流の様子

2) 道路空間整備のコンセプトと景観整備の方針

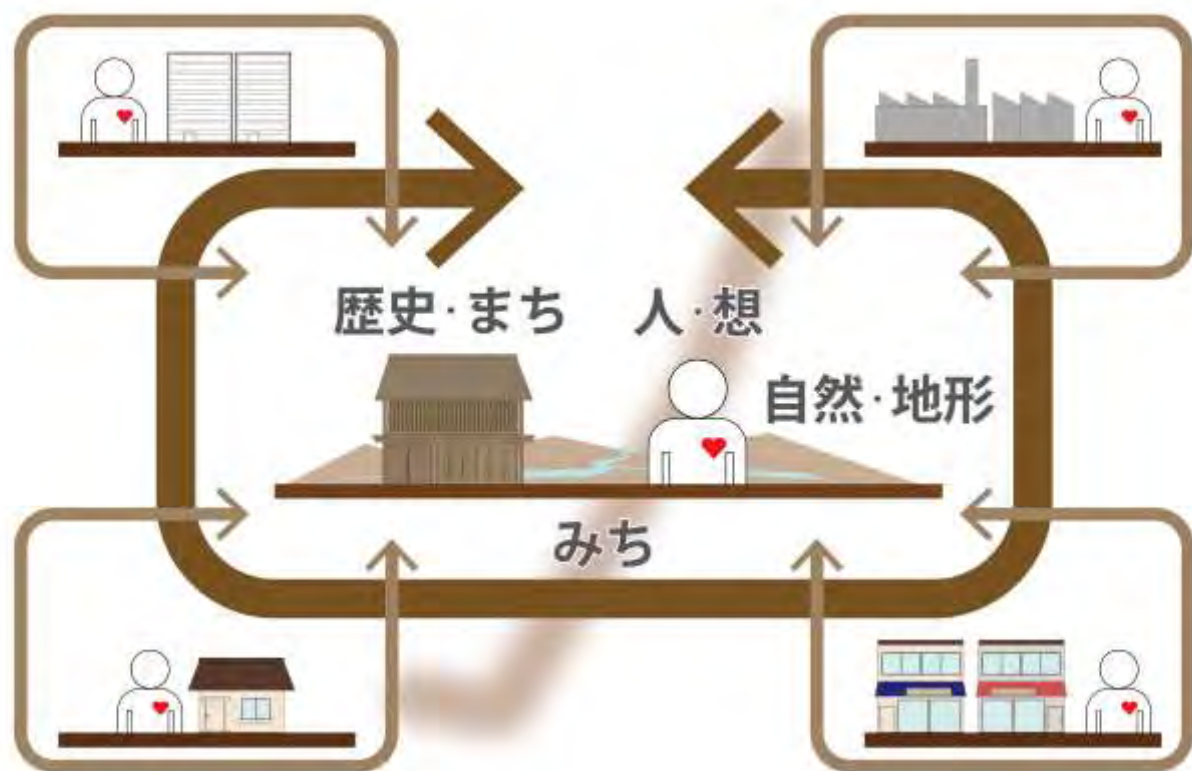
■道路空間の整備コンセプト

『保土ヶ谷宿の道筋発展の歴史を活かし“まちに奥ゆきを与える”みちづくり』

旧東海道保土ヶ谷宿周辺は、宿場成立以前からも古道の要衝であり、道筋と山あい寄り添って集落や社寺等が立地していた。宿の成立以降も道筋や川筋の変更、それに伴うまちの集約（屋敷移転等）が行われるなど、“みちづくり”と一体となって“まちづくり”が進められてきた。

また明治以降も、鉄道や工場、国道整備等を契機とするまちの発展、高度成長期の市街化の進展と駅等を中心とした人の流れなど、旧東海道に結びつく形でまちが発展してきている。

これら歴史的背景をもとに、旧東海道を軸としながら、中世以前・明治以降の道筋や川筋、それらに関連する歴史的資源、自然資源、都市的資源などを活かす道路空間を整備することで、“みち”から保土ヶ谷宿地域の“まち”の奥ゆきを生み出し、地域とともに再生・継承していく道路空間づくりを進めていく。



□景観整備の方針

方針1：旧東海道の多様な道路幅・道路断面を1つにつなぐ街道風情漂うみちづくり

保土ヶ谷宿周辺の旧東海道では、部分的に道路拡幅等が行われてきたことにより道路の幅や断面構成が異なり、1つの道としてのつながりが希薄化している。そのため、各区間に共通した風情あるデザイン要素を取り入れるなど“1つのみち”として道筋の連続性を強化する。

また、沿道の街並み形成や道路附属物等の統一を進めることで、みちのつながりの強化を図る。



国道1号保土ヶ谷橋工区



保土ヶ谷駅西口商店街



環状1号線



シルクロード天王町

方針2：保土ヶ谷宿地域の歴史の深みを継承し、東海道の奥行きを作る回遊性の高いみちづくり

旧東海道を骨格として、背後に流れる今井川や古道の道筋、山裾に点在する社寺、近代以降の発展を支えた工場跡地や商店街、高架下や沿道、建築物、歴史的人物のゆかりの地など、宿場時代から現在に至るみちづくり・まちづくりの資源を活かし、回遊性が高く、保土ヶ谷宿地域としての魅力を醸成するみちの空間形成を行う。

旧東海道と古道や主要な道路との交差点は、これまでの歴史の蓄積の中で、他の道筋や資源とつながり、徒歩や自転車、自動車利用における重要な結節点として機能している。これらの交差点等では、それぞれの特性を読み解き、まちの奥行とつながりを高めていく辻の設えとする。



旧東海道



古東海道



金沢鎌倉道



保土ヶ谷道

方針3：暮らしの豊かさを高めるみちづくり

商店街や川沿いなどでは、沿道や川沿い景観を活かした店舗や住まいの立地が促され、活用される魅力的なみちづくりを行う。また、界索性やまちの奥行を作り出す脇道や路地、参道、眺望点等も回遊性を高める重要な資源としてみちづくりを進める。

3) 情報発信・交流促進のコンセプトと拠点整備の方針

■情報発信・交流促進のコンセプト

『住む人・訪れる人を繋ぐ、拠点の形成』

交流・情報発信施設は、まち歩き等で訪れる人々が情報を得るだけでなく、まち歩き等で訪れる人々と地域住民や地域活動団体との交流のほか、地域住民同士が交流し、地域への理解を深める場としての役割が地域性を高めていくために重要である。

そのため、保土ヶ谷宿地域の顔となる交流・情報発信拠点を形成するとともに、既存の公共施設や交流施設、地域の協力を得て交流拠点となっているまちかど博物館等と連携し、保土ヶ谷宿地域全体で地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々をつなぎ交流を育んでいく施設づくりを進めていく。

□拠点整備の方針

方針1：時代とひとをつなぐ拠点の活用強化

現在、歴史等展示などをもとに交流が行われているまちかど博物館やすーパーすほほ等施設のほか、公民館等の公共公益施設、社寺、名産・名物等を扱う店舗、公園・広場などの施設をまちづくり・みちづくりにより一層活用していく。



まちかど博物館



まちかど博物館での交流の様子



帷子会館



岩間市民プラザ

方針2：まち歩きを支援する情報・休憩拠点の形成

天王町駅や保土ヶ谷駅は、まち歩きの起点として多くのまち歩き等で訪れる人々の集合場所として利用されている。また、通勤通学等をはじめとする多くの住民等が利用している空間でもある。

そのため、駅や駅前広場等に保土ヶ谷宿地域の各種情報を得られる拠点機能と待ち合わせ場所としての十分な滞留空間を確保することで、まち歩きの利便性を高めるとともに、地域住民等にも保土ヶ谷宿地域の資源や歴史が伝わる拠点を形成する。



天王町駅前



保土ヶ谷駅前



草津宿街道交流館 案内窓口



品川宿交流館 本宿お休み処

方針3：歴史がしみ込み、地域住民同士やまち歩き等で訪れる人々をつなぐ交流拠点の形成

地域に開かれた交流拠点を形成することで、地域住民が日常的に利用する施設の中で自然と保土ヶ谷宿地域の歴史がしみ込み根付いていく交流拠点の形成を目指す。また、横浜旧東海道の3つの宿場町の中心として、地域住民や地域活動団体、まち歩き等で訪れる人々が交流を深める施設の形成をめざす。

交流拠点形成については、地域の拠り所である保土ヶ谷小学校跡地等の活用を検討する。



今昔写真展のイメージ



川崎宿交流館 展示スペース



川崎宿交流館 展示スペース



大山街道ふるさと館 会議室

4) 地域活動連携のコンセプトと市民参加の方針

■地域活動連携のコンセプト

『地域とともに創り育てるまちづくり、みちづくり』

旧東海道を軸として繋がり、広がる市街地や歴史的資源等を基盤とし、地域住民の関わりや地域活動団体の連携を強化し、みちづくり・まちづくりの広がりや推進力を高めていく。

また、“まち”“みち”が地域住民に永く愛され継承されていくよう、計画、整備段階からの市民参加や整備後の活用や管理に十分配慮したまちづくり・みちづくりを進めていく。

□地域活動連携の方針

方針1：まち・みちへの関心と繋がりを強化し、まちづくり・みちづくりの推進力を高める

旧東海道を軸に発展した市街地変遷の歴史を持つ保土ヶ谷宿地域の特性を生かし、旧東海道に関連したまちづくり・みちづくりへの関心を高めることで、地域住民の街への関わりと繋がりを強化する。

また、保土ヶ谷宿地域の歴史をはじめ、交流、学習、福祉、交通など地域性やまちの暮らしやすさを高める活動を活性化するとともに各活動の連携の強化や、保土ヶ谷宿地域と市内外の活動と連携した取組みを進め、まちづくり・みちづくりの推進力を高めていく。



ガイドボランティアの様子



子育て支援の様子(こっころHPより)



名物会のイベント出店



松並木プロムナード水辺愛護会の清掃活動(松並木プロムナード水辺愛護会HPより)

方針2：計画・設計、整備、管理・活用の各段階等への市民参加

松並木プロムナードのように自分達の“まち”、“みち”として、地域住民等の心に、より一層根付き、永く愛され継承されていくよう、計画作成やデザインの検討段階から地域の人達等が関わり、活用や維持、管理にも携わっていきけるよう、計画・設計、整備、管理・活用の各段階においての市民参加を行う。

また、各種の課題解決や管理・活用がより効果的に進められるよう、社会実験やイベント等を活用した取組みを進める。



市民参加で道路の設計を行った例(埼玉県戸田市)



市民参加で道路の整備を行った例(保土ヶ谷区)



市民が維持管理に参加している例(保土ヶ谷区)



朝市街道の様子(保土ヶ谷区)